

令和3年高取町議会第3回定例会会議録

---

招集年月日 令和3年 9月21日（火曜日）  
招集の場所 高取町議会議場  
開閉会日時及び宣言  
開会 令和3年 9月13日 午前10時00分  
閉会 令和3年11月15日 午前11時29分

---

出席議員（8名）

1	番	森	川	彰	久	君
2	番	西	川	侑	壱	君
3	番	谷	本	吉	巳	君
4	番	松	本	圭	司	君
5	番	野	口	勝	也	君
6	番	新	澤	良	文	君
7	番	森	下		明	君
8	番	新	澤	明	美	君

---

欠席議員（0名）

なし

---

会議録署名議員

1	番	森	川	彰	久	君
2	番	西	川	侑	壱	君
3	番	谷	本	吉	巳	君

---

職務のため出席した者

議	会	事	務	局	新	田	靖	幸	
書				記	佐	々	木	一	雄

---

説明のため出席した者の職・氏名

町	長	中川裕介	君			
副町	長	東扶美	君			
教	育	長	安田光治	君		
総括	参事	武平年史	君			
総務	課	長	芦高龍也	君		
総合	政策	課	長	石尾宗将	君	
税	務	課	長	岸本資之	君	
住	民	課	長	米田晴信	君	
福	祉	課	長	榭井貞男	君	
まち	づくり	課	長	吉田宗義	君	
事	業	課	長	森本修	君	
会	計	管	理	者	中島佐知子	君
教	育	次	長	前田広子	君	

---

証人として出席した者の職・氏名

町	長	中川裕介	君	
福祉課	保健センター	所長	植山みか子	君
福祉課	地域包括支援センター	保健師	濱坂知子	君
福祉課	兼住民課	保健師	藤原香織	君
福祉課	保健センター	保健師	松本聖子	君

## 議事日程

令和3年 9月21日 午前10時00分 開議

- 1 認第1号 令和2年度高取町一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について
- 2 認第2号 令和2年度高取町水道事業会計決算の認定について
- 3 議第2号 令和3年度高取町一般会計補正予算（第4号）
- 4 議第3号 令和3年度高取町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
- 5 議第4号 令和3年度高取町介護保険特別会計補正予算（第1号）
- 6 議第5号 建設工事請負契約について
- 7 議会常任委員会、予算審査特別委員会及び議会運営委員会の閉会中の継続調査について

---

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

追加議事日程

- 1 会期延長の件について
- 2 新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査に関する動議

午前10時00分 開会

○議長（新澤良文君） ただいまより、本会議を再開いたします。

本日の出席議員は8名中、8名でございますので、本会議は成立いたします。

尚、本日、決算認定に伴い地方自治法第121条の規定により、川上代表監査委員の出席を求め、出席いただいておりますことをご報告申し上げます。

---

○議長（新澤良文君） お諮りいたします。会期延長の件を日程に追加し、追加日程第1として、ただちに議題にしたいと思っております。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起る〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。したがって、会期延長の件を日程に追加し、追加日程第1として議題とすることに決定いたしました。

○議長（新澤良文君） お諮りいたします。本定例会の会期は、本日までと議決されておりますが、12月31日まで延長したいと思っております。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起る〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。したがって、会期は、12月31日まで、

101日間、延長することに決定いたしました。

〔「議長」と呼ぶ声あり。〕

○議長（新澤良文君） 新澤（にいざわ）議員。

○8番（新澤明美君） 会期延長につきまして、議会運営委員会とか、議運の委員長にも話し合いをされているのでしょうか。

○議長（新澤良文君） それは議長の裁断でできることになっております。地方自治法で、ちゃんと調べております。新澤議員。

○8番（新澤明美君） いろいろしなくちゃいけないということも存じ上げておりますが、今、いろいろ話し合いを進めている中で、全く、金曜日の段階では何もご相談もなく、進めていくという、そういう強権的なやり方は、ちょっと私は……。今後、考え直していただきたい。よろしく申し上げます。

○議長（新澤良文君） はい。わかりました。

---

〔「議長」と呼ぶ声あり。〕

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 動議を提起いたします。

新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査に関する動議を提起します。議長にお渡しいたします。

○議長（新澤良文君） それでは、提出者の説明を求めます。1番、森川副議長。

〔1番 森川彰久君 登壇〕

○1番（森川彰久君） それでは、動議をまず読み上げさせていただきます。

新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査に関する動議。地方自治法第100条第1項の規定により、次のとおり、新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査に関する動議を提出します。1、調査項目。本議会は、地方自治法第100条第1項の規定により、次の事項について調査するものとする。(1)新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態に関する項目。(2)(1)項に伴う町幹部の関与に関する項目。2、調査権限。本議会は、1に掲げる調査を行うため、地方自治法第100条第1項及び第10項並びに同法第98条第1項の権限により、1に掲げる調査を行う。調査のため、関係者として、高取町長、副町長、総務課長、総合政策課長、総合政策課長補佐、福祉課長、保健センター保健師、福祉課保健師、住民課保健師、から証人として証言を求めます。3、調査期限。1に掲げる調査が終了するまで。4、調査費用。本調査に要する費用は、今年度においては、当面、10万円とする。令和3年9月21日。高取町議会議長 新澤良文様。提出者、議会議員 森川彰久。賛同者、議会議員 新澤明美。賛同者、議会議員 森下 明。賛同者、議会議員 松本圭司。賛同者、議会議員 野口勝也。賛同者、議会議員 谷本吉巳。賛同者、議会議員 西川侑壱。

地方自治法第100条の権限により、調査を行いたいと思いますので、ぜひともご賛同いただくようお願い申し上げます。動議提出の提案理由といたします。

○議長（新澤良文君） ありがとうございます。ただいま、1番、森川副議長ほか6名の方から、新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査に関する動議が提出されました。よって、本件を日程に追加し、直ちに議題とすることに賛成される方の起立を求めます。

〔「議長」と呼ぶ声あり。〕

○議長（新澤良文君） 新澤議員。

○8番（新澤明美君） ちょっと待ってください。休憩をお願いします。

○議長（新澤良文君） 新澤議員から、休憩という提案がございました。

○8番（新澤明美君） 休憩の賛同をお願いします。

- 議長（新澤良文君） 無いようでしたら、このまま進めます。
- 8番（新澤明美君） ちょっと待ってください。休憩の賛同をお願いします。
- 議長（新澤良文君） 誰も賛同してないですよ。1名なんで。新澤明美議員1名の休憩ということでございますけども、2名以上のご賛同が必要ですので。
- 8番（新澤明美君） 動議に質問。
- 議長（新澤良文君） 今から、賛成の決取るんで。
- 8番（新澤明美君） 動議に質問。
- 議長（新澤良文君） 質問は、ございません。今から採決取りますんで。反対なら反対と言っていただければいいと思います。

〔「議長」と呼ぶ声あり。〕

- 議長（新澤良文君） 7番、森下議員。
- 7番（森下 明君） 動議に、全議員が賛同者として名前を連ねている以上、賛否の必要があるのかと思いますが、いかがでしょうか。
- 議長（新澤良文君） 一応、確認のため、取ろうと思いましたが、森下議会運営委員長からご提案がございましたので、本動議につきましては、議会議員皆様が賛同者ということで、この動議に賛成とさせていただくことにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起る〕

- 議長（新澤良文君） ありがとうございます。
- 新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査に関する動議を日程に追加することに決定いたしました。

- 
- 議長（新澤良文君） 地方自治法第100条の権限による調査は、上程となっております議案について審議いただいたのち、引き続いて行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

- 
- 議長（新澤良文君） それでは、上程となっております議案を一括議題といたします。
- 議題となりました案件につきましては、去る9月13日に提案理由説明をお受けいたしております。
- 各所管の委員会に付託しておりました案件につきまして、ただいまより各委員長の報告をお受けいたします。尚、委員長報告は、委員会が開催された順にお受けいたします。

それでは、予算審査特別委員会のご報告をお受けいたします。7番 森下委員長、ご登壇願います。

〔7番 森下 明君 登壇〕

○7番（森下 明君） 予算審査特別委員会より、ご報告申し上げます。去る9月14日、火曜日、午前10時より、委員8名及び理事者、管理職出席のもと付託案件について慎重に審議させていただきました。

付託されました案件は、議第2号 令和3年度高取町一般会計補正予算（第4号）、議第3号 令和3年度高取町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）、議第4号 令和3年度高取町介護保険特別会計補正予算（第1号）、でございます。

いずれにおきましても慎重に審議させていただきました結果、全会一致で原案どおり承認させていただきました。

但し、コロナ関連の補正予算といえども、予算計上する上においては、しっかりとした説明資料と説得力のある予算計上であるべきという皆様方の意見のありましたことを伝えさせていただいて、委員長報告といたします。

○議長（新澤良文君） ありがとうございます。次に、総務経済建設委員会のご報告をお受けいたします。5番 野口委員長、ご登壇願います。

〔5番 野口勝也君 登壇〕

○5番（野口勝也君） 総務経済建設委員会から、ご報告申し上げます。去る9月15日、水曜日、午前10時から、2階集会室におきまして、委員8名全員出席のもと開催いたしました。

本定例会で本委員会に付託されました1議案につきまして、慎重に審議いたしました。議第5号 建設工事請負契約について、以上、1議案は全会一致で承認されました。以上で報告を終わります。

○議長（新澤良文君） ありがとうございます。次に、教育厚生委員会のご報告をお受けいたします。3番 谷本委員長、ご登壇願います。

〔3番 谷本吉巳君 登壇〕

○3番（谷本吉巳君） 教育厚生委員会からご報告をいたします。去る9月15日、総務経済建設委員会終了後、午後3時40分から、役場2階集会室において、委員8名全員並びに理事者、管理職出席のもと開催いたしました。

今回、付託案件はございませんでしたので、所管課より、報告事項について説明を受けた後、質疑を行いました。

尚、教育委員会所管の統合幼稚園園舎工事の進捗状況につきましては、閉会中の継

続審査を要するものと決定し、閉会中に教育厚生委員会を開催することに決定いたしましたのでご報告申し上げます。以上でございます。

- 議長（新澤良文君） ありがとうございます。次に、決算審査特別委員会のご報告をお受けいたします。7番 森下委員長、ご登壇願います。

〔7番 森下 明君 登壇〕

- 7番（森下 明君） 決算審査特別委員会よりご報告申し上げます。去る、9月16日、17日、両日におきまして、午前10時より、開催させていただきました。8名全委員、そして理事者、管理職出席のもとに付託されました案件につきまして、慎重に審議させていただきました。

付託されました案件につきましては、 認第1号 令和2年度高取町一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について、 認第2号 令和2年度高取町水道事業会計決算の認定について。いずれも慎重に審議をさせていただきました結果、両案件とも全会一致で原案どおり承認させていただきました。以上でございます。

- 議長（新澤良文君） ありがとうございます。以上をもちまして、各委員長報告を終了いたします。なお、委員長報告に対する質疑は行いません。各議案審議の中で、その都度、質疑、討論を行いますのでよろしくお願いいたします。お諮りをいたします。ただ今から議事を進行いたしますが、議案書の朗読を省略することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

- 議長（新澤良文君） 異議なしとのことでございますので、省略いたします。併せて、今定例会は、常任委員会において全議員出席の下に開催されております。付託案件の中で、全会一致で承認されたものにつきましては、質疑、討論を省略したいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

- 議長（新澤良文君） 異議なしとのことでございますので、提案どおりに進めさせていただきます。

- 
- 議長（新澤良文君） それでは、日程第1 認第1号 令和2年度高取町一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について、を議題といたします。それでは、川上代表監査委員より決算審査結果についてご報告を願います。川上代表監査委員、ご登壇願います。

〔代表監査委員 川上 隆君 登壇〕



○代表監査委員（川上 隆君） 認第1号 令和2年度高取町一般会計及び特別会計歳入歳出決算審査について、ご報告を申し上げます。

審査は、去る8月10日、12日の2日間、議会選出の新澤（にいざわ）委員と共に実施をいたしました。審査の概要につきましては、お手元に配布しております高取町一般会計及び特別会計歳入歳出決算審査意見書をご清覧おきいただきたいと思います。審査の結果は、いずれも計数的に正確であり、内容についても適正であると認めます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） ありがとうございます。上程なっております本案を原案どおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

○議長（新澤良文君） 次に、日程第2 認第2号、令和2年度高取町水道事業会計決算の認定について、を議題といたします。それでは、川上代表監査委員より決算審査結果についてご報告願います。川上代表監査委員、ご登壇願います。

〔代表監査委員 川上 隆君 登壇〕

○代表監査委員（川上 隆君） 認第2号 令和2年度高取町水道事業会計決算審査について、ご報告を申し上げます。

審査は、去る5月28日、議会選出の森下委員と共に実施をいたしました。令和2年度高取町水道事業会計決算につきまして、関係諸帳簿並びに証拠書類を照合、審査した結果、決算は計数的に正確であり、内容につきましても適正であると認めます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） ありがとうございます。上程なっております本案を原案どおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

○議長（新澤良文君） 次に、日程第3 議第2号 令和3年度高取町一般会計補正予算（第4号）、を議題といたします。

○議長（新澤良文君） 上程となっております本案を、原案どおり決定することに

ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

○議長（新澤良文君） 次に、日程第4 議第3号 令和3年度高取町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）、を議題といたします。

上程となっております本案を、原案どおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

○議長（新澤良文君） 次に、日程第5 議第4号 令和3年度高取町介護保険特別会計補正予算（第1号）、を議題といたします。

上程となっております本案を、原案どおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

○議長（新澤良文君） 次に、日程第6 議第5号 建設工事請負契約について、を議題といたします。

上程となっております本案を、原案どおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

---

○議長（新澤良文君） 次に、日程第7 予算審査特別委員会、議会常任委員会、議会運営委員会の閉会中の継続調査について、を議題といたします。

予算審査特別委員会委員長、各常任委員会委員長及び議会運営委員会委員長から、会議規則第71条の規定により、閉会中の継続調査申出書が提出されております。

お諮りいたします。各委員長からの申し出のとおり、申出書に記載の事項について、閉会中の継続調査をすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起る〕

- 議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。したがって、各委員長からの申出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定いたしました。
- 

- 議長（新澤良文君） 以上をもちまして、今定例会に付議されました案件は、全て議了致しました。

- 議長（新澤良文君） 引き続きまして、一旦、暫時休憩の後、新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査を行いたいと思います。

当局の皆様におかれましては、これで退室をお願い致します。また、調査のため、証人からの説明を求めますのでよろしくごお願いいたします。暫時休憩いたします。

午前10時26分 休憩

午前10時30分 再開

- 議長（新澤良文君） 再開いたします。

ここで中川町長より、議会議員に対しまして、今回の新型コロナウイルスワクチンについての事案について、ご説明申し上げたいということでございますので、発言を許します。中川町長。

- 町長（中川裕介君） 議長のお許しをいただきましたので、今回のワクチン接種につきまして、議長、並びに議員の皆様、町民の皆様にご多大なご迷惑、ご心配をおかけいたしました。高いところから恐縮ではございますが、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。本当に申し訳ございません。特に、行政の両輪でございます議会の皆様へのご報告が遅れたこと。町民の皆様へのご報告が遅れたこと。また、当日、接種された皆様への即時の対応が遅れたこと。心から深くお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

就任以来、町民の皆様の健康、安全、安心を目指し、新型コロナウイルスワクチン接種を喫緊の課題として取り組んできた私が、このような不祥事を起こしまして、改めてお詫び申し上げます。

本日、設置されました100条調査に、真摯に臨むのは言うまでもございません。また、議会からご提出いただきました申出書、また、全員協議会で議員の皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、直ちにご指摘いただきました、7月11日、7月21日、8月1日の状況を調査しております。また、併せまして、当日、接種

された皆様に個別に連絡をし始めております。今後、その都度、速やかに議員の皆様にご報告しながら、抗体検査、また、感染検査等必要な対応をご相談させていただきながら進めたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。大変申し訳ございませんでした。

- 議長（新澤良文君） それでは、ここで暫時休憩いたします。議員の皆様におかれましては、全員協議会を開催いたしますので、10時40分より、集会室にお集まりくださるようお願いいたします。暫時休憩。

午前10時34分 休憩

午前11時30分 再開

- 議長（新澤良文君） それでは、再開いたします。

これより、新型コロナウイルスワクチン接種にかかる事故の実態と町幹部の関与についての調査を行います。

初めに、中川町長に出席を求めていますので、調査のためにご協力を求めます。

証言を求める前に証人に申し上げます。証人の尋問につきましては、地方自治法第100条の規定があり、これに基づき民事訴訟法の証人尋問に関する規定が準用されることになっております。これにより証人は、原則として証言を拒むことはできませんが、次に申し上げる場合には、これを拒むことができることとなっております。すなわち、証言が証人または証人の配偶者、4親等内の血族、3親等内の姻族もしくは証人とこれらの親族関係にあった者、証人の後見人または証人の後見を受ける者の刑事上の訴追または処罰を招く恐れのある事項に関するとき、及び医師、歯科医師、薬剤師、医薬品販売業者、助産師、外国法事務弁護士を含む弁護士、弁理人、弁護士、公証人、宗教、祈祷もしくは祭祀の職にある者、もしくはこれらの職にあった者が、その職務上、知った事実であって黙秘すべきものについての尋問を受けるとき、及び技術または職業の秘密に関する事項について尋問を受けるとき、以上の場合には証人は証言を拒むことができます。

また、公務員または公務員であった者が、職務上の秘密に属する事項について尋問を受けるとき、その監督官庁の承認を得る前は、証人は証言を拒むことができます。これらに該当するときは、その旨、お申し出を願ひます。それ以外には証言を拒むことはできません。もし、これらの正当な理由がなく、証言を拒んだときは、6カ月以下の禁固、または10万円以下の罰金に処せられることになっております。

さらに、証人に証言を求める場合には、宣誓をさせなければならないことになっております。この宣誓につきましても、次の場合はこれを拒むことができることとな

っております。すなわち、証人または証人の配偶者、4親等内の血族、3親等内の姻族もしくは証人とこれらの親族関係にあった者、証人の後見人または証人の後見を受ける者に著しい利害関係がある事項につき尋問を受けるときには、宣誓を拒むことができます。それ以外には拒むことはできません。

なお、宣誓を行った証人が虚偽の陳述をしたときは、3カ月以上5年以下の禁固に処せられることになっております。以上のことをご承知おき願います。

それでは、法律の定めるところによりまして、証人の宣誓を求めます。宣誓書の朗読をお願いいたします。

○証人（中川裕介君） 私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓います。

○議長（新澤良文君） それでは、宣誓書に署名捺印をお願いいたします。

〔中川証人 宣誓書に署名、捺印〕

○議長（新澤良文君） それでは、これより、証言を求めることとなりますが、証言は証言を求められた範囲を超えないこと。また、発言の際には、その都度、議長の許可を得て、発言いただきますようお願いいたします。

また、証人は議員に対して、反論や質問することはできないこととなっておりますので、ご了承をお願いいたします。ただし、尋問内容が不明確であり、それを明確にするための発言は認められております。

この際、議員各位に申し上げます。本日は、重要な問題について、証人から証言を求めるものでありますので、不規則発言等、議事の進行を妨げる言動のないようご協力をお願いいたします。議員の発言につきましては、証人の人権に十分留意されますよう、併せてお願いいたします。

また、証人への尋問は正当な理由がある場合を除き、次に述べる質問は制限をいたします。1、証人を侮辱し、または困惑させる質問。2、誘導尋問。3、既にした質問と重複する質問。4、争点に関係のない質問。5、意見の陳述を求める質問。6、証人が直接経験しなかった事実についての陳述を求める質問。以上、ご留意の上、ご発言ください。

ただいまより尋問に入ります。最初に人定尋問を行います。

それでは、これより証人から証言を求めたいと思います。

ここで、証人尋問の方法について、お諮りをいたします。

最初に、議長から総括尋問としてお尋ねをさせていただいた後、最後に各議員からの補足尋問を許可いたしたいと思いますが、そのようにさせていただくことにご異

議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。よって、そのように議会運営をさせていただきます。

それでは、証人にお尋ねをいたします。まず、ひとつ目として、二度打ち等の医療事故があり、隠蔽されているのではとの疑惑について、お尋ねいたします。令和3年7月11日、保健センターでのワクチン接種について、知っていることをお話しください。

○証人（中川裕介君） 7月11日のワクチン接種でございます。高取町では5月から、ずっと毎週水曜日と日曜日、ワクチン接種をしておりました。7月11日も保健センターとへいせいたかとりクリニックで接種をしております。私、その当日も、朝、両方の場所、また、お昼頃、そして最後、夕方頃にそれぞれの接種会場を訪れまして、確認をさせていただいている状況でございます。その7月11日の日は、へいせいたかとりが早く終わりましたので、保健センターへ行きました。私もずっとこういう形でやってましたんで、かなり疲労もあったのかなと思いますねけど、ワクチンが1本余ったということで、そういう状況になっていると、着いて初めて聞きました。たぶん4時半か5時頃だったか。時間はちょっと定かではございません。保健師さんと役場の職員と関係者が急に会議をするということで、私の記憶で……。お叱りを受けるかもわかりませんが、どこまで記憶が定かかわかりませんが、ちょっとお話しさせていただきます。そのときに、確かに今、議長からご質問あったように、二度打ちとか、そういうミスがなかったのかとか、確認してくれと申し上げたと思います。それで「ない。」ということです。それで20分か30分ぐらい議論されていたかなと思います。最終的に様子を見ましようとなったのかと思います。あやふやな証言で申し訳ないんですけども、ずっとワクチン接種をしておりますので、日々安全に安心していただいで、少しでも早く少しでも多くの方に接種をしていただきたかったんで、今の状況は、そういうことでございます。ちょっと中途半端な記憶で申し訳ないんですけども、私の今知っている、そのときの記憶をたどったら、そういうことでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） お尋ねいたします。当日、接種しないで帰った人がいるという判断に至った経緯について、お尋ねいたします。

○証人（中川裕介君） 経緯といいますか、ほとんど記憶がなかったんですが、たぶん導線が、元々接種しなくても帰れるような導線とか、人数もぎょうさんいて、見

てくれてたんでしょうけども、そういうこともあったんで、そういうふうなこと、そのときは申し上げたんかもわかりません。すみません。

○議長（新澤良文君） 次に、そのことについて、どう指示若しくは対応されたのか、お尋ねいたします。

○証人（中川裕介君） 先程、本会議でも、皆様にお詫びいたしましたけども、適切に即、対応すれば良かったと思うんですが、そのときは、接種されなくて帰られたと。そういうご意見も皆さんから。職員さん集まっていましたんで。そのときに、即時対応すべきであったと今では考えております。非常に反省をいたしておる次第でございます。

○議長（新澤良文君） 次に、通常どのようにしなければならないと認識されておりますか。

○証人（中川裕介君） 本来といいますか、一本余ったということを公表して、それと即時に関係者、その日に、当日に接種された方がおられるということを確認するというので、そのときは、そういうことを怠っておりました。データの的にそうなっておりますので、非常に申し訳ないという気持ちでいっぱいでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 週刊誌内で、接種の現場にも立ち会ったと申されております。この件については、接種を受けられた方に問い合わせる等の対応で手を尽くしたと述べられておりますけども、これはどういう回答をされたんでしょうか。

○証人（中川裕介君） 私の方に、週刊新潮さんからご取材を受けたので、接種の会場に立ち会ったということは、私は申し上げておりません。接種会場は、いつも見に行っていますけども、実際の接種会場について、そのような発言はしておりません。それに、もうひとつは、問い合わせ等というのは、住民さんから特に健康被害とか、何かあれば、こちらの方は、即時対応するという旨でお伝えをさせていただきましたが、記者の方が、そういうふうに理解されて書かれたのかなと思っております。

○議長（新澤良文君） 次に、2番といたしまして、令和3年8月1日、リベルテホールでのワクチン接種について、お尋ねいたします。知っていることをお述べください。

○証人（中川裕介君） その8月1日に、リベルテで接種させていただいた。そのときは、リベルテでございましたので、朝から行って、最後、夕方のぞきに行ってると思います。終わったときぐらいでしょうか、担当の方から報告を受けて、シール

が2枚足りませんと。ワクチンが2本余っています。それともうひとつ、当日キャンセルがあって、事前にわかっていたようで、職員が待機しておりました。その2名が、本来なら接種したんでしょうけども、シールがないから帰らせました。ということで、担当課長から報告を受けたということです。全部終わってからだと思います。そういうことを最後に報告を受けて、接種者の数と注射器の数、それと予診票の数は全部合っていますからと報告を受けたと。記憶あまり定かではありませんが、そうかなと。とにかくシールが2枚足りなかったと。それに2本ワクチンが余っています。それと職員が2人来ていたけど帰らせました。ということの報告を受けたように思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） そのことについて、どう指示若しくは対応されたのかお尋ねします。

○証人（中川裕介君） 基本的に、接種者の数、それにワクチンの数、ワクチンは2本除きの分ですけども、本来ならば2人来ていますので、合っています。予診票も合っています。ということでしたので、問題ないかなというような判断をさせていただいたと思います。

判断というか、こういうことなので大丈夫ですと。そうですかと言ったと思います。

○議長（新澤良文君） 通常、どのようにしなければならぬと認識されておりますか。

○証人（中川裕介君） 基本的に総数が、シールだけ2枚足りないということなので。そのシールが、どうして2枚足らんのかということ、その段階で、どうなったの、調べてくれと言ったか。そこなんですけども。本来なら、まず、チェックをしっかりする。そこにシールを貼っていたのが派遣会社の職員さんだと思いますので、その職員さん。また、派遣会社を通じて調べてもらうように指示した記憶があります。そういう話をさせてもらったかなと思います。まず、シール2枚どうなったの。ということ、追及していかな、調べていかなあかん、ということで認識しております。

○議長（新澤良文君） 次に、再冷凍があったのではないか、という疑惑について、お尋ねいたします。知っていることをお話してください。

○証人（中川裕介君） 保健センターの冷凍庫からリベルテホールの冷蔵庫といひますか、家庭用の冷蔵庫と冷凍庫でございますのかな、それで移して、たぶん7月の16日か前の日に持っていかれたと思います。金曜日に持っていったと。日曜日の接種に向けて準備されていたのかなと思います。詳細は、私わからなかったんですけど



ども。全部運ばれて、最終的に冷蔵庫に保管してますね。ということ、聞いたと思います。いつ頃聞いたかということは、あれですけども、最終的に冷蔵庫に入れました、ということ。冷蔵庫だったら問題ないかなと私は思っていました。それで、冷凍庫から冷蔵庫に移してるんで、再冷凍になるんじゃないかというご意見がありますということで。それでは、おかしい。危ない。気を付けていかなあかん。慎重にしていかなあかんので。県の方に、たぶんその日は日曜日で、休みでしょうから、確認してくれと。それともうひとつは、ドクターに確認してくれということで。たぶん日曜日に使わずに水曜日まで置いていたと思います。月曜日にもう一回確認してくれまして、大丈夫ですと。ファイザーの方から返事をいただいたと聞きましたので。それで、もう一度、たぶん水曜日に使っていると思うんで。そのときに来られた先生にも、もう一回相談してやと。大丈夫かどうか確認してください。ということ言ったかと記憶にございます。あやふやなことで申し訳ないんですけども。ずっとワクチン接種を喫緊の最優先課題として、極力皆さん頑張ってくれていますので。私も極力現場に行き、実際の接種のところには立ち合いませんけども、入り口なり全体の流れ等をチェックさせていただいた次第でございます。そういうことで、かなりあやふやな記憶も多いんですけども、そうであったかなという記憶でございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） そのことについて、どう指示若しくは対応されたのかお聞かせください。

○証人（中川裕介君） 指示したか。対応したかと。まず、ファイザーの方も大丈夫。県の方も特に。県の方からファイザーに聞けということだったらしいので。それと、あと、来られた先生も大丈夫。ということで。ああそうですか。そしたら接種に使って良いのかなと。私、医者でもございませんので、そういうのわからないんで。指示したとか。お使いになる先生が大丈夫とおっしゃっていただくのが、私としては一番安心でございますので。先生がOKとおっしゃってくださっているのであれば、当然お使いになるやろうな。ということでございます。

○議長（新澤良文君） その先生というのは、どなたを指していますか。

○証人（中川裕介君） それは恐縮ですが、奥村先生です。だったと思います。私、直接聞いていなくて、担当課長どちらか総務課長だったか総合政策課の課長か。朝、リベルテ会場に行ったときに、来られる先生に確認してくれということをお願いしまして、たまたま奥村先生が来ておられたみたいで。実際、先生とはお話ししていないんですけど、課長から報告を受けまして、「OK、大丈夫です。」と、おっしゃって

います。ということで。

○議長（新澤良文君） 通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。

○証人（中川裕介君） ファイザーも大丈夫です。ドクターも大丈夫です。ということであれば、私みたいな医療的知識の乏しい人間では、それやったら大丈夫かなというふうに考えます。接種させていただくと思います。

○議長（新澤良文君） 次に、他に、高取町のコロナワクチン接種において、住民の皆さんの安全安心を守るために、お話しするべきことがありますか。

○証人（中川裕介君） 特に、一番最初の受付、高齢者の受付で、大変混乱を起こして本当に申し訳ない。それを教訓に。それともうひとつは、それぞれの会場で、いろいろ日々細かい気を付けることがありますので、改善をしながら接種させていただいた。皆さんのおかげで集団接種を終わらせていただいて、今、個別接種に入らせていただいているということです。そういう意味で、自分自身が喫緊の最優先課題として取り組んできたことに対して、こういうことを起こしまして、先程申し上げましたように、心からお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。

○議長（新澤良文君） それではここで、議会議員の皆様から質問をお受けいたします。質問のある方は挙手の上、発言をお願いします。

○議長（新澤良文君） 松本議員。

○4番（松本圭司君） 松本です。7月11日の日曜日、保健センターは、私も15時40分からワクチンを打ちに行っております。そこで事実を述べさせていただきます。私のときは、辰巳先生に問診を受けて、入り口でシールを貼ってもらって。そして接種会場に行ったら、導線、白のテープで床にずっと進行方向が書いてました。そのとき、女性の方3人おられたと思うんですけど、そのまま待機所に出るところまで行ってしまいました。というのは、3人の女性の方が各接種の準備をしておられ、私見落とされておりました。入る寸前に、「こちらです。」ということで、ワクチン接種の前で机に座らせてもらいました。間違っってね、年配の方であれば、そのまま真っ直ぐ進む可能性も無きにしも非ず、です。ただ、ここで、町長のところに、接種しないで帰った人がいるという判断に至ったというのは、判断をするのは良いんですけども、何で次の日に、帰られた人が誰かということを確認しなかったのか。その辺をご質問いたします。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 先程、議長からの総括的なご質問に対し、ご答弁させていた

だいたとおりでございます。本当に、そこでちゃんと確認をすれば住民の皆さんのご不安も特になかったのかなど。これにつきましては、本当に反省をいたしまして、もうお詫びをするしかございません。言い訳じゃないんですけども、この休みの三連休の間に、59名ですか。一番疑わしき人がおられるらしいんで。その方々にご連絡させていただいて、私じゃないんですけども、個別に訪問しておる次第でございます。本当に今、おっしゃられたら、なぜ、そのときに対応しなかったんやと。おっしゃるとおりでございます。住民さんの命をなんと考えているのかと。お叱りを受けるのは、本当にそのとおりでございます。そのときに、早急に対応しなかった私が、お詫びするしかないということでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 松本議員。

○4番（松本圭司君） それと今、町長、最後にお話しされています。ただ、町長のところに全て判断を任せる。これはおかしいと思います。各担当課長あるいは各担当者が、きちっとこういうところは、まず、聞きに行こうか、という話が何で出なかったのか、管理職から。その辺を疑います。私は。今後、危機感を持って作業をしていただきたい。これは私の希望です。それともう一点、8月1日も私はワクチンを打ちに行っています。このときの対応は、素晴らしいと思いました。それにシールが2枚足らん。これはどう対応できたのか。これは難しいと思います。ただ、ワクチンが2本余っていた。8月1日は、これは私がこう思いますということで聞いておいてください。シールが2枚足らん。これは重大なことですけども。ワクチンを648人分持って行って、646人に打って、2本余ってましたと。正解ですね、これは。で、これを職員2人に打たなくて帰らせたと。これも正解やと思います。これは個人的なことですけど、8月1日については、特に問題はない。ただ、シールの件だけやと思います。まあ、意見ですので。以上で終わります。

○議長（新澤良文君） 議員の皆様申し上げます。意見は求めておりません。質問のある方のみ挙手の上、質問をよろしくお願ひ申し上げます。

○議長（新澤良文君） 森川議員。

○1番（森川彰久君） 今、町長の回答をお聞きして、まず、(1)の①ですね。4時半頃、注射器が1本余ったということを知ったということで、二度打ちの確認を申し入れたが、「ない。」との回答だったと。これは、どなたに申し入れされて、どなたが「ない。」と回答されたんですか。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） どなたっていうのは、あれですが。そのとき保健センターに

おりました。保健師さんと町の職員も含めまして。まず、一番心配しているのが、それでございますので。今、どなたに二度打ち大丈夫なのか、ということだけは聞いたと思います。その4時半というのも、全く記憶があやふやで申し訳ないです。とにかく夕方でした。へいせいたかとりから保健センターへ戻って、たぶん接種がみな終わってたか、終わろうとしていたぐらいやと思います。そういうことでございます。一番それがやっぱり怖いことでございますので。そこをまず、確認してということで、はい。

○議長（新澤良文君） 森川議員。

○1番（森川彰久君） 今の回答をお聞きしたら、町長は、やはりこの件に関して、軽はずみな判断はされてなかったという回答だと思います。ということになれば、あと、保健センターの方々の回答とも照合して、各議員の皆さまはご判断せんなんかなと。そういう状況ではないでしょうか。町長は、そういう重大な意識を持っておられたという回答を得られたということで、私の方は確認します。もう一点は、（2）のファイザーから、冷蔵庫に移したが大丈夫と回答があった。21日水曜日、来られた担当の先生にも聞いて大丈夫であったと。ということで、医学的知識を持たないので、良しとしたと。この内容が私、重大な要素を占めてると思うんですね。町執行部は、ファイザーに対して、どういう質問をして、それに対してファイザーが、良しとしたのか。当日来られた奥村先生に、どのような質問をされて、奥村先生は、良しとされたのか。これ重大な要素を占めると思います。その点、お答えください。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） 実際に私が運んだわけでもなく、ファイザーに確認もしておりません。奥村先生にも確認しておりません。ただ、先程も言いましたように、ワクチン接種の全ての責任は私でございますので、高取町。やらしていただいておりますので。担当の課長の方から報告を受けて、詳細は、申し訳ないですけれども、聞いておりません。

○議長（新澤良文君） 森川議員。

○1番（森川彰久君） この点を、この後証言に立たれる方からも説明があろうかと思うんですけれども。この点の回答をよく聞いた上で、各議員の皆さん、私も含めて、この事案についての判断材料とさせていただきたいと、かように思います。終わります。

○議長（新澤良文君） 次に、質問のある方。谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 私からはですね。7月11日に注射器が一本余ったということで、報告を受けられて、二度打ちのミスはなかったということで、町長確認されたと思うんですけども、どなたかから町長に、この件については、例えば59名全員に調査をした方がいいのではないかと、というような進言がありましたか。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） 先程、申しました。そのときは、少しでも早くということで、そこらへん。それは覚えていて。最終的に見送ったというのは、私の責任でございます。そういうやりとりがあったかどうかということも含めまして、ちょっと今、忘れてしまっていて申し訳ないんですけども、何を言っているのかとお叱りを受けるかもわかりませんが、これ、事実でございます。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 今日まで、町長のお考えとして、ひょっとしたらカラ打ちをですね、疑われたということは、ありませんでしたか。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） 今となっては、ですけども。本当にそのときに適切に対応していれば良かったと思っております。先程もお話しさせていただいたとおりでございます。まあ、一度もなかったんかと。とにかく早く住民の方にワクチンを少しでも早く多くの方に接種したいという気持ちで、ずっとやってきてますんで。今であれば、そういうことも十分認識しておりますけども。その段階では、気が回らなかったといえ、お叱りになるかわかりませんが。ただまあ本当に、あまり詳細については、その段階では申し訳ないですが、記憶が飛んでしまっているのかわかりませんが。そういうことでございます。

○議長（新澤良文君） 他に質問のある方は。森下議員。

○7番（森下 明君） 当然、最高責任者である町長の責任は重いというように感じております。その中で、いずれの事案にしましても現場の責任者がおるということですよね。7月11日に発生しました事案についても、その事案が発生したときに、責任を持ってこの件については、このようにしなければならないという方向が、なぜ、そのときに最善の方法を打ち出すことを提案できなかったのか。あるいは町長が、それで良しと。例えばですよ、言ったとしても、町長、それはあきません。この件については、早急に対応すべきです。というふうに進言したものがおらんかったのか。あるいは、この次の再冷凍のワクチンの問題についてもそうです。これは、担当した責任を持っている課長が、県へ聞き、ファイザーに聞いたと。その回答を

持って町長に報告している。ということで、間違いないですよ。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） ファイザー、再冷凍の件ですね。そういうことで、間違いございません。先程、答弁させていただいたとおりでございます。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） そして、その再冷凍したワクチンの接種にあたる時も、担当の先生に大丈夫か、再度確認をせよ。というように、町長は指示を出したとおっしゃっています。そんな中で、先生の「大丈夫です。」という報告を受けたのも、その責任者であるというように理解してよろしいでしょうか。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） そのとおり。先程答弁させていただいたとおりでございます。私、詳細についてはかなり忘れているところがありますが、とにかく住民さんの安心安全というのが第一でやらさせていただいているつもりでございます。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 8月1日についても、そうでございます。ワクチン接種会場で、シールが二枚余ったという中で、協議すべきは、その場の接種の担当の責任者であり、関わった人達によってしっかりとした協議がなされて、本来は最高責任者である町長に、こういう事案が発生しました。こういう対応をします。とか、という報告がそれぞれなされなければならない。最終的に責任を持つのは、当然町長であります。その中で、全ての事案に対して、その場の責任者のしっかりとした説明があり、報告があり、提案がなければならない、というふうに思っています。トップとしても、課長等からの説明を受けて、そうですか。ちゃんとしてくれたんですね。という、課長と責任者の発言を信用して、そうですか。了解しました。という発言になっていると思いますが、町長どうですか。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） 組織を預らせてもらっている人間として、今、高取町のトップで座らせていただいている人間。組織の中では、そうでないと何事も進みません。それが組織でございます。

○議長（新澤良文君） 他に質問のある方。西川議員。

○2番（西川侑壱君） すみません。僕からは一点だけ質問させていただきます。この新型コロナワクチンの接種に関して、対策の会議、正式名称忘れてしまって申し訳ないんですが、開かれていると思うんですが、そこでは、この三件に関しては報

告はされたんですか。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） 先程、申しましたように、報告しておりません。本当に反省いたしておりますし、本来ならば速やかに報告させていただいて、そこでまたご議論させていただいて、本当に、そのときにいろいろアドバイスをいただいたらと思っております。今となっては、非常に反省をしている次第でございます。本当に申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） 聞き洩らしていて申し訳なかったんですけど、本来であればこういう事案があったときには、すぐにそういうことを開いて、全体の確認を取って進めていくべきかなと思いますので、一点だけ質問させていただきました。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） おっしゃるとおりでございます。

○議長（新澤良文君） 他に質問のある方は、ございませんか。新澤議員。

○8番（新澤明美君） 先程、トップを預かる者としたら、責任者の報告を受けて、何もなかったということだったんで、良しとしたと。そういうご発言をされましたが、この7月11日の際、カラ打ちはなかったという、それは良しとしても、一本余っているということに関しては、何の疑問もお感じになられなかったんですか。それだけで結構です。

○議長（新澤良文君） 中川証人。

○証人（中川裕介君） 先程、申しましたように、即時対応すべきであったと。今であれば、そういうように思っております。本当に反省することばかりでございます。住民の皆さんの安全安心、健康を預らせていただいている私でございますので、そのときに即時に対応すべきであったと思っております。反省いたしております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 他に中川証人に対する質問のある方は、いらっしゃいませんか。

○議長（新澤良文君） いらっしゃらない。それでは、中川証人に対する尋問をこれにて終了いたします。

次の証人は、濱坂証人を1時から尋問したいと思います。1時よりということで再開させていただきます。よろしいございますか。それでは1時より濱坂証人。

尚、申し上げます。この尋問において、証拠となる書類等ございましたら、潔く提

出いただきますよう強く申し上げます。皆様の元に証拠等ございましたら、提出お願い申し上げます。それでは、ここで休憩いたします。

午後 0時18分 休憩

午後 1時00分 再開

○議長（新澤良文君） 再開いたします。

それでは、次に、濱坂証人から、宣誓書の朗読をお願いします。

○証人（濱坂知子君） 私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓います。

○議長（新澤良文君） それでは、宣誓書に署名捺印をお願いいたします。

〔濱坂証人 宣誓書に署名、捺印〕

○議長（新澤良文君） それでは、ただいまから、濱坂証人に対する尋問を行います。

まずは、二度打ち等の医療事故があり、隠蔽されているのではという疑惑について、お尋ねいたします。令和3年7月11日、保健センターでのワクチン接種について、知っていることをお話してください。

○証人（濱坂知子君） 7月11日の件につきましては、私は地域交流スペースの方で接種業務を行っておりましたので、全くそのようなことは聞いておりませんでしたし、全く知らない状況でした。

○議長（新澤良文君） はい、そうしましたら、ここは全てわからないということの証言なんで。では、2番に行きます。令和3年8月1日、リベルテホールでのワクチン接種について、知っていることをお話してください。

○証人（濱坂知子君） 8月1日、私は、薬液充填の方、対応しておりまして、ワクチンを充填した注射器を診察室に運ぶということをしていたんですが、そのときには、必ず、注射器の本数とシールの数を合わせて、確認して、記録して、保管するようにしていました。

その後、午後・・・、終わる・・・、ちょっと時間の方は定かではないんですが、最終、職員が二人来るということを聞く前に、シールが2枚足りないということを知りました。

薬液充填からは、シールと注射器の数を合わせて、必ず出しているのですが、その後、接種中とか、接種後というのは、私はわからない状況でした。途中、看護師が、接種の注射器を1本失敗したということで、1本引き上げて、その際は、シールと廃棄する注射器を薬液充填の部屋に戻しました。

○議長（新澤良文君） それでは、このシールが2枚足りなかったということにつき



まして、可能性として、どのような可能性があるか、お聞かせください。

○証人（濱坂知子君） これは、ちょっと、私の憶測でしかないんですけども。接種済証の発行のところで、やり取りするとき、使用済みのシールのあとの部分と合わせて渡してしまったように思います。それは、私の憶測でしかないので、わかりません。最終、薬液充填の方から出したシート数と最後に残ったシート数が合わなかったというところもあったので、私は、憶測でしかわからないところです。

○議長（新澤良文君） 可能性として、二度打ち、いわゆるカラ打ち等の医療事故が発生したという可能性はありますか。

○証人（濱坂知子君） カラ打ちや二度打ちというのは、考えにくいと思います。というのは、接種の看護師さんが注射器を失敗したときに、伝えていただいて、そこで照合して、引き上げて、打てないようにしているので。二度打ちとか、カラ打ちというのは、考えにくいと思います。

○議長（新澤良文君） では、町民の命を預かっている立場として、ワクチンの現場で接種を担当している者として、この二度打ち、カラ打ちというものが、可能性として100%なかったと言い切れますか。

○証人（濱坂知子君） 全部について見ているわけではないので、100%というのは、人間のすることなので、ないかなと思います。

○議長（新澤良文君） そのことについて、どう指示若しくは対応されたのか、お聞かせください。

○証人（濱坂知子君） シールがないということで。2枚足りないということで。使ったシールの残というか、残りのシールのあとの数と合わせた数と合わないとおかしい。ということで、それを調べてもらうように、当日言いました。ゴミ箱など全部思い当たるところ調べていただいたんですけども、結局ないままで、接種の数と合うということで、それでその日は終わったかと思います。

○議長（新澤良文君） それでは、通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。

○証人（濱坂知子君） 各パートごとが、それぞれやっているもので、随時連携して確認していくことが大事だと思います。

○議長（新澤良文君） それでは、次に、再冷凍があったのではないかという疑惑について、知っていることをお話してください。

○証人（濱坂知子君） 7月16日の金曜日に、18日の接種分のワクチンを保健セ

ンターに取りに行くためについて行くというかたちで、総合政策課の課長と課長補佐、保健師の藤原さんと私で、保健センターへ18日のワクチンと注射器を取りに行きました。その際に、私が行ったときは、保健師の藤原さんと一緒に注射器の数を数えていました。その間に、ワクチンのやり取りをされていたかと思います。私も、ちょっと、そのときの数とかは覚えていません。で、そのまま保健センターからリベルテホールの方に、冷蔵庫の方に移すところに行きました。その際に、冷凍庫の方にワクチンを入れたというのは、見ました。ただ、その冷凍庫に入れる前の温度であるとか、冷蔵庫の中の温度というのは、私は確認していないので、わかりません。その後、温度は、確認はしていなかったんですけども、これは、冷蔵庫に入れるべきものではないかということで疑問を持ったので。そのときに、これは冷蔵庫ではないか。と藤原さんともお話しして、冷蔵庫に入れた方がいいよね。という話はしていましたが、当時の冷蔵庫の温度がすごくあやふやで、変動するということで、それだったら冷凍庫に入れた方が安心ということをいわれて、冷凍庫に入れられた。というところは覚えています。そのときも、おかしいというか、冷凍庫に入れてしまうと再冷凍になるんじゃないかという疑問も普通に思って。その後、次の日に、総務課長と参事の方に、その件を報告しました。とりあえず、18日にこのワクチンを使うべきではないということをお伝えしました。で、18日は、当日、ワクチンを取りに行くように指示され、ワクチンを取りに行き、その日は、再冷凍といわれたワクチンを接種することなく終えました。その日、接種業務終了後、リベルテで集まって、会議を、ミーティングのような会議をされたと思います。その際に、再冷凍の話が議題に上がり、それが再冷凍にあたるのかということ、ファイザーや県に確認してから使わないといけないと決まり、月曜日に確認するということで終わったかと思います。私の知るところは、そこまでです。

○議長（新澤良文君） その18日の会議に出席していたメンバーをお聞かせください。

○証人（濱坂知子君） わりに沢山おられたんですが、町長はじめ副町長、参事、総務課長、総合政策課長と課長補佐、あと、委託業者の何人か、と私と保健師の松本さんです。もしかしたら抜けているかも知れませんが、私の覚えている範囲では、そういう方々がおられたと思います。

○議長（新澤良文君） その後、そのことについて、どう指示若しくは対応されたのかお聞かせください。

○証人（濱坂知子君） 先程も申し上げたかも知れませんが、今の時点では、そ

れが大丈夫なのか、大丈夫でないのか、日曜日の時点ではわからないということで。月曜日に、次の日に、ファイザーと県に確認してから、それを使用するかしないかを決めてはどうか。ということでした。

○議長（新澤良文君） そのファイザーや県には、誰が確認したのか。ご自身がされたのか。

○証人（濱坂知子君） 私は、その日以降は関わっていないので、誰がどうしたというのとはわからない状態です。

○議長（新澤良文君） それでは、その後、そのワクチンはどのように処理されたのか。

○証人（濱坂知子君） 月曜日に、県とファイザーに確認したと聞かされ、その週の水曜日に接種する人に使用しました。残ったワクチンは、更に次の回にまわして使用したと思います。本数までは、定かではありません。

○議長（新澤良文君） 冷蔵庫の温度が安定しないという証言があったのですが、そのときの冷蔵庫というのは、どのような冷蔵庫だったのですか。

○証人（濱坂知子君） 普通の家庭用の冷蔵庫が、リベルテの部屋にありました。リベルテで開始する少し前に届いていて、家庭用の冷蔵庫で不安定ということもあって、ずっと温度の管理というか、何度になっているか調べておられたと思います。やっぱり、そのときも、安定しにくいなというお話をしていたかと思います。

○議長（新澤良文君） 冷蔵庫の温度が安定しないということは、冷凍庫の温度も安定しないということでしょうか。

○証人（濱坂知子君） 私は、ちょっと、その温度が何度になっているかというところまで確認していなかったもので、冷凍庫までなのか、冷蔵庫までなのか、わかりません。

○議長（新澤良文君） 先程から、あまりわからないとか、ご承知じゃないと発言されておりますが、ご自身は、このリベルテホールでのワクチン接種に、どのような立場で関わっておられたのですか。

○証人（濱坂知子君） 一応、総括看護師ということで、医療職が関わるところを全体に見る係をしていました。

○議長（新澤良文君） 総括看護師という立場で関わっておられたということなんですけど、ということは、取りまとめというか、責任ある立場だと思いますけど、冷蔵庫の温度が安定しないところに入れたということにおいて、ご自身の責任は感じておられますか。

- 証人（濱坂知子君） 今から思えば、その冷蔵庫を使うより、確実に当日の朝にワクチンを保健センターから取って、そのまま使用するのが良かったのではないかと思います。
- 議長（新澤良文君） もちろん、このワクチンを冷蔵等する場合においては、データロガーを設置するよう、厚労省の方から厳重に指導されていると思うんですけど、データロガーは、どうされましたか。
- 証人（濱坂知子君） データロガーで管理していた温度が、どのあたりまで管理していたか、ちょっと、私自身はわかりません。ロガーが入って、確認した上で、不安定なところもあったのかと。今思えば、そう感じます。
- 議長（新澤良文君） 通常では、どのようにしなければならないと認識されておりますか。
- 証人（濱坂知子君） 先程、申し上げたことと同じことなんですけども、家庭用の冷蔵庫ということもあって、医療用とは違うので。確実に当日に取りに行くようにすべきだったと思います。
- 議長（新澤良文君） 現場の総括看護師として、責任ある立場であったと思うんですけども。通常、どのようにしなければならないという認識というのは、例えば、冷蔵扱いのワクチンを冷凍したということでもありますけど。その場合は、どのように対処した方がよかったと認識されておりますか。
- 証人（濱坂知子君） そのまま冷凍庫に入れるのではなくて、冷蔵庫で保管すべきです。
- 議長（新澤良文君） 冷蔵庫に保管すべきだったということは、冷蔵庫の温度が安定しないからだということだと思うんですけど、他の自治体においては、このような疑いワクチンに関しましては、廃棄処分に、現場の責任者が判断されているとお聞きしているんですけど、本町においては、そのような対応をしなかったということですが、その辺について、どう思われますか。
- 証人（濱坂知子君） 県やファイザーに確認されて、大丈夫という結果をいただいたということで、そのように対応していけるのかと思います。
- 議長（新澤良文君） 県やファイザーに問い合わせたということなんですけど、誰が問い合わせたということも、全くわからないということですか。現場の責任者ということですので、貴方は。どのようにそれを認識されますか。
- 証人（濱坂知子君） 当日の会議、ミーティングの中では、保健師の松本さんもおられたので、保健師の松本さんが県に確認するということが、終わりました。ファ

イザーに確認されたのは、総合政策課の課長だということです。

○議長（新澤良文君） 総括看護師という立場でね、16日に搬送したときに、安定しない冷蔵庫に入れてしまったということで、ご自身として、このことについて、現場で21日に接種ということになるんですけども、これについて、21日の接種にこのワクチンを使うということについて、何かご意見はされましたか。

○証人（濱坂知子君） 月曜日の時点で、大丈夫ということを知りながら、私としては、それを信じるしかできなかった状況で、私自身、それを信用して使用しました。

○議長（新澤良文君） では、最終的に、どなたの判断で、このワクチンを接種されたとお考えですか。

○証人（濱坂知子君） 私が思うには、総合政策課の課長、プロジェクトチームのリーダーという立場で確認されたというところで、その方の指示に従ったという形になります。

○議長（新澤良文君） 大きな問題がありそうな疑惑のあるワクチンを、このプロジェクトリーダーとはいえ、一課長が指示したということによろしいございますか。

○証人（濱坂知子君） 私は、そう思います。

○議長（新澤良文君） 他に、高取町のコロナワクチン接種において、住民の皆さんの安全安心を守るために、お話しすべきことがございますか。

○証人（濱坂知子君） 今後、このようなことがないように、対応を考えていくべきだと思います。

○議長（新澤良文君） 私が申し上げているのは、住民の皆様にお詫びの言葉をこの場で言ってくれということじゃなしに、今、問題になっております7月11日のワクチン注射器の余りの問題。そして、いわゆる再冷凍の問題。そして、8月1日の接種済みシールの紛失の問題。以外に、この高取町のワクチン接種において、住民の皆様の命を守るために、一日も早く話してもらわなければいけないということは、ございますか。

○証人（濱坂知子君） 思います。

○議長（新澤良文君） 例えば、どういうことですか。

○証人（濱坂知子君） 今、思いつきませんが、実際、その当日、当たっておられる住民の方であったりとか、どう対応していくかというところを一緒に考えていくべきかだと思います。

○議長（新澤良文君） 先程、リベルテホールの家庭用冷蔵庫の中の温度が安定しないということを証人はおっしゃいました。このリベルテホールの家庭用冷蔵庫で、

保管あるいは冷蔵した後に、町民の方に対して接種したということはございますか。

○証人（濱坂知子君） 使用して、使ってまず、ただ、温度計を入れて確認してというところと、あと、部屋の温度で冷蔵庫の温度が変わる可能性もあるので、冷蔵庫のある部屋を冷やして、するなど対応はしていました。

○議長（新澤良文君） データロガー等を入れて、安定した温度を確認したということではよろしいございますか。

○証人（濱坂知子君） データロガーについては、私は見てないんですけど、普通の温度計を入れて確認はしていました。

○議長（新澤良文君） 総括看護師という立場で、厚生労働省から指導のあるデータロガーで、どうして温度を確認しなかったんですか。

○証人（濱坂知子君） 確認してないというのは、データとして、私は確認していませんでしたが、使用するときには確認していました。温度計で確認していました。

○議長（新澤良文君） どういう温度計ですか。

○証人（濱坂知子君） デジタルではなく、普通の温度計です。昔からあるような。

○議長（新澤良文君） これは2度から8度の温度、冷蔵であればね、必ず保ってください。それ以上になれば廃棄してください。という指導がなされている中で、この7月19日以降にリベルテホールの家庭用の冷蔵庫の中において冷蔵していたワクチンの温度が2度から8度、必ず、その範囲内のワクチンしか使っていないと言い切れますか。

○証人（濱坂知子君） 24時間ずっと監視していたわけではないので、そこは言い切れないと思います。

○議長（新澤良文君） では、可能性として、温度が安定していなかったという可能性もあると、先ほどの質問の中でおっしゃいましたが、リベルテホールの家庭用の冷蔵庫は、温度が安定しないから、冷蔵じゃなしに7月16日のワクチンについては、冷凍に入れたというのが、7月16日案件の中で証言されています。それを考えたときに、それ以降の冷蔵庫が安定しているという証言自体が、ちょっと一致しないんじゃないですか。どうですか。

○証人（濱坂知子君） 私が確認したときの温度では、大丈夫というところですよ。

○議長（新澤良文君） どういう状況で、どういうふうに確認したんですか。

○証人（濱坂知子君） まず、ワクチンを取り出すときに、必ず、冷蔵庫の中の温度を確認していました。

○議長（新澤良文君） ワクチンを使用するときに、温度を、棒状の温度計で昔ながら

らの。その温度を見て正確な温度だと判断されたということによろしいですか。

○証人（濱坂知子君） それを見て判断していました。

○議長（新澤良文君） その判断したことは、適正だと思いでしょか。

○証人（濱坂知子君） ロガーではなく、温度計で確認するしかできなかったです。

○議長（新澤良文君） では、お尋ねいたします。16日以降、リベルテホールの安定しない冷蔵庫の中でワクチンを冷蔵された。そのワクチンを何人の方に接種したか。お聞かせください。

○証人（濱坂知子君） 何人というのは、詳しく覚えていません。

○議長（新澤良文君） こちらの方で調べたところ、1,500人ぐらい該当するということでございます。この家庭用の冷蔵庫というのは、いつまでお使いだったんですか。

○証人（濱坂知子君） いつまでというところは、記憶に残ってないんですけども、途中で厚生労働省の方から家庭用冷蔵庫は使用しないように、と通達が来てからは、冷蔵庫の使用をやめました。厚生労働省の通達がいつ来たかというところまでは、ちょっと覚えていません。

○議長（新澤良文君） その後は、使用をやめた後は、どういう方法をされたんですか。

○証人（濱坂知子君） 当日の朝にワクチンを運搬する方法をしていました。

○議長（新澤良文君） 厚生労働省が、家庭用冷蔵庫を使ってはいけないという通達を出されたということなんですけど、厚生労働省は当初から、家庭用冷蔵庫は安定した温度でなければ使用してはならないという通達が出ていたと思うんですが、その辺については、どう承知していますか。

○証人（濱坂知子君） 私の勉強不足だったのか、そこの部分は、最初から知らなかったです。

○議長（新澤良文君） ワクチン担当の総括看護師という責任ある立場において、ワクチンの保存方法、冷凍方法、そういうことを先程から証人は、私の認識不足とか、知らないとか、あるいは、どなたかから聞いた、という証言をされておりますが、ご自身の責任ある立場において、そのような勉強不足という発言で私も驚いているんですけども、そういう認識がないまま、現場の総括看護師という役職を担ってきたということによろしいございますか。

○証人（濱坂知子君） 結果として、そうなってしまいました。

○議長（新澤良文君） それでは、ここで、議員の皆様から質問をお受けいたします。

質問のある方は、挙手をお願いします。森川副議長。

○1番（森川彰久君） ちょっと今、これまでの濱坂証言をお聞きしている中では、数々のずさんさが明るみに出たかなという感は否めません。大体のところは、議長から質問ありましたので、2～3点だけ確認させていただきます。まず、(1)の①、8月1日の分、残ったシールを一緒に捨てた可能性も否めない。ということと、二度打ち、カラ打ちは考えにくいと。100%とは断言できないが、考えにくいと。ちょっと説得力乏しいと思うんですが、そこらどうなんですかね。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） まず、薬液充填から出すときは、薬液の中をダブルチェックで確認しています。そのときに、量が足りないとか、多いとか、空っぽとか、そういうところをダブルチェックで確認して出しているのです、出した時点ではカラ打ちすることは、まずないかと思われまます。実際、接種のところに運んで接種された注射器というのは、医療用廃棄物として1回1回捨てておられるので、二度打ちということ、まずないかと思えます。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 私も、たまたま保健センターで1回、リベルテで1回、どちらの会場でも接種を受けた一人なのですが、保健センターの場合は、先生が二人おられて、トレーがひとつあって、リベルテの方は、トレーがふたつあって、本数の確認が大変しやすかったと。というのは、私、実際に見てわかったんですけど。濱坂さんがおっしゃるように、ダブルチェックもしていたということですが、カラ打ち、二度打ち、が考えにくいというのが、ちょっと私にはわからないんですが。となれば、シールを一緒に捨てた可能性があるということですが、確率からいくと、どんなもんですか。一緒に捨てたという確率が、ほとんど濱坂さんの認識としたらあるわけですが、他にもまだ何か考えられますか。誰かが持って帰ったということは、考えられないですか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 接種を終えて、接種済証のところで、シールを貼ったりやり取りをされている中で、小さな机でやっておられたので、そこで残ったシールを一緒に合わせて、お返しするファイルや封筒に入れて返された可能性もあるのかなと。まあそれも憶測なので。見たわけじゃないので、わからないですけど。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） ということは、いろいろな可能性がある中で、濱坂さんの主



観とすれば、二度打ちは考えにくいと。という個人の意見ということで、理解させてもらっていいんですね。あと、本来、あとで反省材料になっています、一旦、保健センターから運び出して、それを冷凍庫に入れて。それを冷蔵庫に戻したと。その冷蔵庫がですね、これだけ全国的にワクチン接種、重要な意味合いを持つ捉え方をされている中で、温度そのものが不安定な冷蔵庫を、町当局にちゃんとした冷蔵庫にしてくださいとか。また、それに対応する電気設備、配線整備をしてくださいとか。そういう申し出を総括責任者として当然なされるべきものであったかなと私は思うんですけど。その点、申し出されたのか。されなかった場合、なぜ、されなかったのか。この2点、お聞きします。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 私は、そういう再冷凍とかいう問題もあったので、当日の朝にワクチンを運んだ方がいいということを申しておりました。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） ということは、その申し入れを、総括責任者なんですよ。現場の総括責任者の意見を聞かない、よほど大きな圧力の存在の方がおられたという認識でいいですか。そうであれば、その方はどなたですか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） どなた、というところは……。一人がそのようにおっしゃって、ということではないのかもしれないですし、上の方たちとか本部とかで、どんな話になっているかというところは、私にはわかりません。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 先程も、町長にも同じ話しましたから。ファイザー社に対し、どのように問い合わせされたのか。県にどのように問い合わせされたのか。その内容によって、正しい質問されたら、それは大丈夫ですよと答えるのは当たり前のことで。それを町長にも先程お聞きしていたのですが。濱坂さんの場合は、先程から説明されている不安定な冷蔵庫の状態であって、にもかかわらず、使ってもいいんですかという現場の正しい情報をもってファイザーに問い合わせされたという確認、それをされましたか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 確認されたということは、伺いました。ただ、そのときに、何人か、その現場にいたものであったりとか、保健センターの方であったりとか、そういう方々と一緒にいる中で確認したわけではないので、おっしゃることは……。

それぞれに偏りがあって問い合わせされたのかもしれないです。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） この問題だけに限らず、どの問題に対しても、高取町は責任の所在が曖昧にずっとされてきていると思うんです。この問題にしても、誰が言ったかわからない。何人かの会話の中で結論が出た。これはいささか重視しなくてはいけない問題ではなかろうかなと思います。例えば、5人、人数がいて、わりと重要な決定事案するのに、私が質問して、5人が一度に回答したら、5人が回答したことになるんですが、それでは責任の所在が曖昧になるんじゃないでしょうかね。だから濱坂証人の今の証言で、どなたというのは総括責任者としては、当然確認して、記録も取っておくべき事案ではなかろうかと私は思います。あと、付随して同じような解釈になってくるんですけど、厚労省の通達があって、初めて家庭用の冷蔵庫は使わないようにするべきと、先程答弁されまして。議長の方から、当初からそのような通達があったんじゃないんですか、という質問をされました。これもわかりです。当初から知っておられたのであれば、二度目の通達で、これはいけないと理解した。判断した。これは、住民の方にとって、理解されない、納得されない回答だと思うんです。当初、厚労省から通達があった時点で、こんな冷蔵庫ではだめなんですよ。これから大事な生命にかかわるワクチンを打っていく中で、こんな温度が不安定な冷蔵庫ではだめなんですよ。ということ、総括責任者若しくは町長に直訴する、お願いするぐらいの気構えがあってもいいんじゃないでしょうか。そうでなかったら、住民が、安心してワクチンを接種できる状態でなかったということ、ここで確認というか、申し入れしておきます。終わります。

○議長（新澤良文君） 各議員に申し上げます。これは質問の場でございますので、申し入れ、あるいは要望というのは控えてください。

○議長（新澤良文君） ここで私の方から、3点ほど確認させてください。7月16日に4人で保健センターにワクチンを取りに行ったということでございますが、何時に取りに行かれて、何時にリベルテに着いたのか。という点について、まずはお聞かせください。

濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） すみません。少し前のことなので、時間っていうところは、はっきり覚えていません。夕方ということしか覚えてないんですけど。4人で取りに行かせていただいて、取りに行くと、冷蔵庫に入れる前に、一人、冷蔵庫の温度を見ておられる方もおられました。だから、そこにいたのは5人です。

○議長（新澤良文君） 5人というのは、石尾課長、前田課長補佐、濱坂さん、藤原さんと。

濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） あと一人、江口さんがおられました。

○議長（新澤良文君） ご存知のように、二度打ちの可能性は、看護師の立場で、ありえないという発言をされておりますが、ご承知のとおり、本町の保健センターでもインフルエンザワクチンにおいて、以前、二度打ちという事故がありました。今、全国的にもワクチンの二度打ち、カラ打ちという事案が沢山ございます。直近では五條市の方でもあったということで、謝罪、そして感染症対策等されました。貴方は、責任ある立場、そして看護師免許を持っているという立場において、こういう事案、あるいは高取町においても過去にこういうことがあったという中で、どうして二度打ちという可能性だけを排除しようとするんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 先ほども申し上げたように、接種した後は、必ず・・・・・・・・。実際、100%ということは、ないのかもしれませんが。申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） もし、二度打ちであるならば、看護師の免許をお持ちの濱坂証人であれば、二度打ちであれば、住民の方に、どのような対処をしなければあかんか。感染症のリスクもあるということを考えたときに、そういう可能性が全国的に沢山ある中で、その可能性だけを排除して、このシールの廃棄であるとか、誰かが持って帰ったであるとか、というようなあまり考えられない可能性の方を。先般の町長の発言の中でもあったんですけども、何か高取町の今回のこのワクチンの事故については、接種する側の人たちが、低い可能性の方を、自分たちでそう思ってみたかったんかもしれんけど。仮に二度打ちであれば、感染リスクもあるわけですから。そういう町民の安全を守る、本来はそちらの可能性をとらなければいけないことを、臭い物に蓋をするといえ、言葉悪いですけど。簡単な方の処理の仕方をしたこと。極めて重大じゃないんですか。濱坂証人、どう思われますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 関係のある住民の方に、確実に安心していただけるとしたら、検査をして確認し、その後、対応していく必要があると思います。

○議長（新澤良文君） もう一点、私の方から聞かせていただきたいのは、安定していないリベルテホールの家庭用の冷蔵庫で冷蔵したワクチンを接種された住民の方には、今後どのように対応した方がいいと、総括責任者として、どう思われますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） まず、抗体を確認することと、感染症を確認していく必要が

あると思います。

○議長（新澤良文君） それは安定していない冷蔵庫のワクチンを打たれた住民、全てということでもよろしいございますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） はい。そうです。

○議長（新澤良文君） ここで私の質問は終わります。誰か質問のある方は、西川議員。

○2番（西川侑壱君） 今のお話を聞いていて、素朴な疑問というか、自分自身把握できていないんですが、最初からシールの枚数と注射器の数、あと予診票、間違いのないというダブルチェック体制。誰と誰で、どのようにダブルチェックの体制を取られていたかという事実というか、システムをもう一回確認させていただきたいのですが、よろしいですか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） はい。薬液充填の部屋で、まず看護師が充填したものを看護師同士で、一旦、希釈の生理食塩水の確認。あと、吸ってからの確認をして、最終、私がチェックしています。本数であるとか、必要量が入っているかの確認をして、大丈夫であれば、シールの枚数と注射器の本数分のシールをもって、運搬しているということです。

○議長（新澤良文君） 町長、いいですか。大事な100条調査会の中でのことなんですけど。これ、役場職員誰も聞いてないんですけども。この証言の中で、仮に新事実が出てきているのであれば、一分一秒を争う事態でございます。これ、職員誰も聞いていない。もし、仮に、今新たな証言がございました。安定していない冷蔵庫のワクチンを接種された住民に対しては、抗体検査の必要があるという証言を濱坂証人はされましたけども。そうであるならば、傍聴なりしておった職員がこのことに当たらなければいけないと思うんですが。町長、この対応の仕方どう思われますか。ちょっと、これすぐ誰か傍聴させるような体制でメモぐらい取らせたらどうですか。

○議長（新澤良文君） ここで暫時休憩します。

2時04分 休憩

2時09分 再開

○議長（新澤良文君） 再開いたします。それでは、西川議員。

○2番（西川侑壱君） 先程、お聞きさせていただいた、薬液充填する看護師さんがいて、その後、保健師の濱坂さんが本数とシールの確認ということをして、と思

うんですけど、シールの確認は濱坂さん一人でやっておられて、いつかわからないんですけど、基本的には一人でやっておられたということでもいいんですか。

○証人（濱坂知子君） 正確には、そこに委託業者の人が一人いたので、その方も一緒にシール、本数、何本ですっていうことを一緒に確認して、シールを用意して、さらに希釈の時間と本数を付箋でトレーに貼って出すようにしていました。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） よくわかりました。整理させてもらうと、一番最初、看護師が薬液充填をして、本数を両方で、看護師さんと濱坂さんが数えられて、委託業者さんと濱坂さんがシールの数をダブルチェックして、しるしまで付けていたということで、本数とシールに関しては、ずれがないというような認識で大丈夫ですね。ごめんなさい。引き続き、今話を聞いた上で、もう一回整理していきたいんですけど、7月11日に関しては、誰と誰で……。7月11日は、いなかった……。ごめんなさい。もうひとつ、8月1日の件ですね。8月1日は、先程言われた体制でチェックされていたという認識なんですね。わかりました。以上で大丈夫です。

○議長（新澤良文君） 他に、森下議員。

○7番（森下 明君） お伺いたします。まず、7月16日、夕方に保健センターの方へ受け取りに行かれたということで。保健師の責任者の濱坂さんとしては、本来、当日の移送を勧められたということであったと思いますが、その日は一緒に取りに行かれたということでよろしいですね。その中で、ワクチン移送については、クーラーボックスに入れておられると思うんですが、そのときに、やっぱり温度管理がきちりできる、温度の推移がきちりできる、先程から出ていましたが、データロガーですか、その付いた保冷バッグというのは、それを一緒に持つていくの、その機械は。その機械は、どこにあったんでしょうか。当日。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） データロガーは、リベルテの冷蔵庫があったところに置いてありました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 本来は、移送のときにもクーラーボックスと一緒に移動させる必要があったのではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 今まで、保冷バッグの中にそういうことをしていなかったの、そのまま行きました。リベルテでやる前から、当日、運ぶことがあったとして

も、ロガーを入れて運ぶということはしていませんでした。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） その上で、当日リベルテへ移送されました。移送して、それでも再冷凍にあたるかもわからないので、冷蔵の方がいいというふうに思っておられた。そういうようにおっしゃられたということは、間違いはないでしょうか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 冷蔵庫に入れるべきだということを言いました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） その中でも、やはり冷蔵庫、冷凍じゃなくて冷蔵庫の温度が一定しない、一定しない恐れがあるために、再冷凍も仕方ないかなというふうになられたのでしょうか。どうでしょうか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 再冷凍は絶対的いけないということで、そのワクチンを使用するのもどうかということも、その時点で思いました。その後、そのことを総務課長と参事に相談しました。それから、その当日使うのをやめようと、当日に聞きました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） それともう一点、先程来、出ていました家庭用の冷蔵庫はいかがなものか。ということで、当初から厚労省からいわれていたとすれば、これ家庭用の冷蔵庫ですけど、新しく買ったのは町の担当者ですよね。これはもうハナから、厚労省から通達されていたとしたら、ハナから、買うときから間違いを起こしているということになります。これについては、濱坂さんの意思とか関係なく、買われて置かれていたと判断させていただいたらいいのでしょうか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） リベルテで開始する前に、デモンストレーションという形で関係者を集めて、そういうことがあったときに、私は、その冷蔵庫を初めて知りました。家庭用の冷蔵庫……。もちろん、医療用の冷蔵庫があるものだと思っていたので、家庭用の冷蔵庫ということを知ったときは驚きました。自分でも、これを使うんですかっていうことを逆に質問というか、投げかけたのを覚えています。それは委託業者の方もおられて、あと、総務課長、副町長、その他参事、上の方達もおられました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 今更ですが、もうそのときから医療用の冷蔵庫を配備すべきであったというのは明らかですよ。その中で、担当の責任者としては、それでもそのある冷蔵庫の中で、室温を下げたり、あるいは冷蔵庫の温度管理をされていたということで間違いはないですか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） そうです。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） そこでは、データロガーというのは、使われていたんでしょうか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） データロガーは、入っていました。最初の頃。いつまでというところは定かではないんですけど、入っていたんですが。このデータロガー自体も、ちょっと怪しいというか、ありえない温度が出ているときがあったように思います。というのは、冷蔵庫に入っているのに室温の温度が出ていたりとか。そういうふうにちょっとデータロガー自体おかしいように思いました。で、それをカバーするために普通の温度計を入れられていたように思います。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 当然、そんな中では、24時間に渡って温度管理をするというのは、不可能ですよ。その中で、ワクチンを安定した状態に保つために、どのぐらいの頻度で冷蔵庫内の温度をチェックしておられたのか。わかる範囲で答えていただけたらと思います。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 私自身は、温度計でしか確認できないと思い、温度計でしか確認しないようにしていました。そしたら、いつの間にかロガー自体がなくなっていたと思います。温度が合わないのか、誰が抜いたとか、わからないですけど。温度計だけでやるのか。というふうに判断していました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 一日一回とか、そんな感じですか。温度の管理については。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 温度の管理。やっている途中は、冷蔵庫を開け閉めするたびに確認はしていました。それ以外は、お部屋にいないので、24時間というわけではないです。チェックしていたのは。

- 議長（新澤良文君） 森下議員。
- 7番（森下 明君） それ以外に、温度チェックする人はおられなかったんでしょうか。当然、開けたり閉めたりしたら、冷蔵庫内の温度が急激に上がったりしますので、そういうことをしたら、あかんかもしれんけど、それについてはいかがでしょうか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） それ以外で、たまにチェックされていたかと思うんですが、実際、誰かが確実にチェックしていたかというところでは、ないと思います。
- 議長（新澤良文君） 森下議員。
- 7番（森下 明君） 旧式の棒温度計にしろ、完全にチェックされた製品でございますので、大きく温度差が変わるとか、異常に温度体制に不備があるとは思いませんが、それについても、途中でデータロガーがなくなったとか、誰かが持って行ったかわからんとか、そういうことについても、大きな問題やと思います。それから、8月の分について、お伺いいたします。西川議員が既に質問しておりますので、あまりしつこくは言いません。当日、接種された人。記録に残っている人。それと注射器の数は、合っておりましたでしょうか。それだけ、ちょっとお答えください。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 使用済みというのは、その都度、廃棄物に入れているので、確認することはできませんけど、残の数ということでは間違いはなかったです。
- 議長（新澤良文君） 森下議員。
- 7番（森下 明君） 用意した数と、残と、接種者の数が合っていたと。合わなかったのはシール2枚。ということで、確認させていただいてよろしいでしょうか。間違いはないですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） はい。
- 議長（新澤良文君） データロガーの温度が安定しなかったのであれば、新しいデータロガーを設置するというのが、現場としての対応じゃないんですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 新しいデータロガーを付けてくださいと言うべきだったと思います。
- 議長（新澤良文君） 24時間、2度から8度で管理しなければいけないということもご承知ですね。濱坂証人。



- 証人（濱坂知子君） はい。
- 議長（新澤良文君） 他に質問のある方、いらっしゃったら。新澤（にいざわ）議員。
- 8番（新澤明美君） 既に皆さん質問されているんで。データロガーの使用についてですけども、保健センターからリベルテに運ぶ際には、それを入れて温度管理をすべきではないかという話を聞いているわけですが。データロガーの使い方や温度管理については、いつの段階で研修を受けておりますか。そういう研修は、一切受けておられないわけですか。データロガーの使い方について。そこらへん、皆さん同じ見解で、職員の皆さんはおられるのか。とても疑問に思って聞いているんですが。お答えください。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） そういう使い方であったりとか、再度、ワクチンの移送というところで、そういうことをしなければいけないというのを、確認事項みたいなことを皆で確認はしていなかったです。
- 議長（新澤良文君） 新澤（にいざわ）議員。
- 8番（新澤明美君） それならば、動かすときに、温度確認をしなくてはいけないという話については、全く知らなかったということですか。データロガーの使い方に関しては、濱坂さんは、担当した日についての医療関係の最高責任者という話でございしますが、ワクチンの温度管理については、その日だけじゃありませんからね。ずっとワクチン管理する上で、皆さんが統一見解で研修を受けて、やるべきだと思えますが、そういう研修はございませんでしたか。なかったということですね。それぞれが勝手に理解しているか、いないか、わからないという、そういう状況で進んだと。そういうふうと考えていたらよろしいですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） そうです。
- 議長（新澤良文君） このワクチンについてはね、移すときも置いているときも常に2度から8度の冷蔵。そのためのデータロガーでございします。そういうことを認識していなかった。あるいは、その必要性を感じていなかった。という証言をされたということでございます。
- 議長（新澤良文君） 他に質問のある方。西川議員。
- 2番（西川侑壱君） すみません。何度も。データロガーに関して確認したいんですけど、高取町にデータロガーは、いくつあるんですか。

- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私が知っているのは、リベルテにあったひとつです。もしかしたら他に持っておられたかもしれないですけど、私が見たのはリベルテにあったものだけ。ひとつです。
- 議長（新澤良文君） 西川議員。
- 2番（西川侑壱君） そもそも論になってしまうんですけど、保健センターに医療用冷蔵庫があるんですよね。その保健センターの医療用冷蔵庫の中にもデータロガーは、本来は……。それは、いらない。すみません。保冷バッグにもデータロガーは必要で、家庭用冷蔵庫にもデータロガーは必要だったという認識で大丈夫ですか。本来は。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私が運搬しているときも、保冷バッグにデータロガーを入れることはなかったです。
- 議長（新澤良文君） 西川議員。
- 2番（西川侑壱君） 本来は、入れておくべきものという認識でいいですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 入れておくべきものというのは、私も認識不足だったので、入れなければいけないということも言わなかったです。そのときは。
- 議長（新澤良文君） 他に質問のある方。谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） 私から、何点か質問させていただきたいんですけども。このワクチン接種を高取町で実施するにあたって、当然、会議を開かれて、役割分担等決められたと思うんですけど、そのときの例えば厚労省の通達とか、マニュアルとか、そういう万全な資料はあったんですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私は、そのように与えられるということではなくて、自分自身でホームページを見たりとか、ということなんで。常に新しいことがあるとすれば、そういう書類で確認ということにはなかったです。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） そのような中で、濱坂さんは総括看護師という役割を任されていると思うんですけど、簡単で結構です。どういう職務をされているか、伺います。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。

- 証人（濱坂知子君） 当日の、薬液充填の管理であったりとか、運搬とか、そういう業務であったりとか。あと、健康観察室の方で何かあった場合に応援に行くとか。看護業務の全般を見るということで、見ていました。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） そのような重要な役割を果たされるにあたって、例えば独自で知識を得られていたということなんですけど、不安とか、なかったですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 独自というのは、・・・。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） 先程、聞かせてもらったときには、厚労省の通達とか、マニュアルとか、総括看護師の役割を果たすにあたっての資料ですよ。こういうことをしてくださいという。なかったわけでしょう。だから不安とかなかったですかとお聞きしているんです。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） そういう資料があったらいいのに。ということも思いました。それで独自で確認するなり、することしかできていなかったです。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） そして、18日の日に、再冷凍の件について疑義があるということで、総務課長と参事に報告されたということなんですけど、これは口頭ですか、書面ですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 金曜日にそのことが起こって、次の日の午前に、私は総務課長に連絡しました。電話で。そのことをお伝えさせていただいて、総務課長が参事にも伝えてほしいということで、参事にもお伝えしました。電話で。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） 例えば、このような重要な疑義が発生したときは、これは濱坂さん独自の判断で総務課長に報告されたということなのか。例えば、こういう疑義が発生した場合は、マニュアルで、例えば、この課長に報告しなさい。あるいは、プロジェクトリーダーに報告しなさい。そういうのが何もないわけで、これはあくまでも濱坂さんの判断ですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私の判断で連絡しました。

- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） あと、もう一点なんですけども、ワクチンを保健センターから取り出す際に、いつ頃から、そういう保健センターから取り出して接種するようになったのか。最後にお聞きしたいと思います。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） いつ頃から、冷蔵庫から取り出してというのは、もう接種が始まった当初からだ。リベルテでやる前に、地域交流スペースの方でやっていたときから、そのように運搬して接種していました。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） そうしたらね、再冷凍にあたるのではないかとの疑義が発生したのは、7月の16日ですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） そのときが初めてリベルテで行う一回目の準備のときで、そのときが初めて。家庭用の冷蔵庫に入れたときが、初めてのときです。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） それで、だから最初で最後ということですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） その後、厚労省の通達が、家庭用の冷蔵庫は使用しない方がいいという通達があってからは、その冷蔵庫で保管しないようにしましたが、その通達がいつかっていうところは、わかりません。
- 議長（新澤良文君） 他に、ないようでしたら、私から一点だけ確認させてください。濱坂証人は、証言の中で、まずは7月16日の再冷凍の事案については、濱坂証人の中で、適正ではなかったということで、よろしいございますね。
- 証人（濱坂知子君） はい。
- 議長（新澤良文君） 次に、8月1日の事案についても、ご自身が医学的に看護師の常識の中では、二度打ち、カラ打ちということは考えにくいということでしたが、日本国中で、こういう考えられないことが起きているということをお考えたときに、本町でも、この8月1日の646人について、二度打ち、カラ打ちという可能性が絶対はないということは言い切れない。ということをお先程回答いただいたということよろしいございますか。
- 証人（濱坂知子君） はい。
- 議長（新澤良文君） もう一点、最後にいきます。リベルテホールの家庭用冷蔵庫

の温度が安定していなかったということでございますので。リベルテホールの家庭用冷蔵庫で冷蔵していたワクチン。そのワクチンを使って接種した住民の方においては、医学的見地から、抗体検査をするべきだという発言をされましたが、それによろしいございますか。

○証人（濱坂知子君） はい。

○議長（新澤良文君） 何か言いたいことはございませんか。何か言っておきたいことがあれば。

○証人（濱坂知子君） 先程も、何度か言ったかもしれないですけど、リベルテに接種会場が移るときに、家庭用冷蔵庫というのを使用するというのは本当に当日、……。一日前ですかね。知らなかったの。医療用冷蔵庫が元々購入していれば、こういう問題は起きていなかったのかなというところで、もうちょっと医療用冷蔵庫が手に入るまで、当日にワクチンを取りに行くようにすればよかったのかなというところで反省しています。

○議長（新澤良文君） それでは、これで濱坂証人の尋問を終わります。濱坂証人、お下がりください。

○議長（新澤良文君） ここで暫時休憩いたします。休憩後、次に、藤原証人を尋問します。

午後 2時40分 休憩

午後 2時50分 再開

○議長（新澤良文君） 再開いたします。

7月21日、306名。7月25日、623名。7月28日、306名。計1,235名の方のワクチンを接種された方が、適正な温度で管理されていなかったワクチンを接種されたという事実が判明いたしました。その旨をお伝え申し上げます。まず、手続きを踏まずとか、早急にこの100条調査権を行使することに慎重な議会議員の皆様におかれましては、これで少しでも早く町民の方の命を救えるという、町民の方に健康状態をチェックすることができたということをお知らせ申し上げます。

○議長（新澤良文君） それでは、次に、藤原証人の尋問を行います。藤原証人。尋問席へ。宣誓書の朗読をお願いします。

○証人（藤原香織君） 私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓います。

○議長（新澤良文君） それでは、宣誓書に署名捺印をお願いいたします。

〔藤原証人 宣誓書に署名、捺印〕

- 議長（新澤良文君） それでは、藤原証人に対する尋問を行います。まず、7月11日の事件についてお尋ねいたします。二度打ち等の医療事故があり、隠蔽されているのではとの疑惑について、令和3年7月11日、保健センターでのワクチン接種について、知っていることをお話してください。
- 証人（藤原香織君） 私は、その日は、ワクチン業務には従事しておりませんでしたので、わかりません。
- 議長（新澤良文君） それでは、敢えて申し上げます。この事件を聞いて、ご自身は保健師という立場において、通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。
- 証人（藤原香織君） 二度打ちという疑いがある場合は、まず、私も資料を見ただけなんです。帰った方がいるかもしれないというところと、二度打ちがあるかもしれないというところと、その日に打った方に連絡をして、きちんと打ったかどうか。また、抗体検査や感染症の検査をできる体制で対応するのがいいと思います。
- 議長（新澤良文君） では、令和3年8月1日、リベルテホールでのワクチン接種について、知っていることをお話してください。
- 証人（藤原香織君） シールが余ったときの業務については、私は、従事しておりませんので、何も存じておりません。
- 議長（新澤良文君） では、この事実をご自身が何らかの形で知ったということでございますけども、通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。
- 証人（藤原香織君） まずは起こりうる可能性を考えて、調査という形をしてから、ベストな対応をするべきかと思います。
- 議長（新澤良文君） それでは、再冷凍があったのではとの疑惑について、お尋ねします。知っていることをお話してください。
- 証人（藤原香織君） 再冷凍のときは、先程の濱坂さんがお伝えしたように、私も、その当日にありました。家庭用の冷蔵庫が来るということも、同じようにその当日に知ることになります。私も、総括看護師という立場は、その日の業務に当たっている一役職みたいなものであって、私も、その日に総括看護師に当たることがありました。なので、リベルテホールの前は、保健センターと地域交流スペースたかとりの方でやっていたので、そのような役割はなかったんですが、リベルテホールに行ったときに、ワクチンの運搬に総括に当たるから、一緒についてきてほしいということで、ついて行った形になります。保健センターで、ワクチンを入れるところにはおらず、注射器を濱坂さんと数えるのみで、リベルテホールに移りました。家

庭用の冷蔵庫であるということに驚いて、その以前に、マイナス6度などの値をデータロガーで見ましたので、不安になって、冷蔵庫は大丈夫かということはプロジェクトチームの方に伝えていました。データロガーがマイナス6度や常温になったりとか、そもそもこれが壊れている可能性もあるので、その日に、プロジェクトチームの江口さんが、データロガーの確認にやってきてくれました。やはりパソコンでデータロガーを確認しても、取れてない日もあれば、マイナス何度というのを示していて、その後に普通の温度計を入れるときちんとした4度とか5度で、自分が確認する、当たっている業務のときは、温度がそれで保たれていると確認していました。その日に、では、じゃあ、どの冷蔵庫にいれたら……。他に冷蔵庫がないので、どうすべきかということで、ずっとそこで話し合っていました。じゃあ、冷凍庫に入れたら大丈夫だっていうことで、冷凍庫に入れる形になったんですが、冷凍庫はダメだということは、濱坂さんと一緒にお伝えはしたんですが、冷凍庫に入れる形になりました。それが夕方でしたので、役所に帰ったときに、これはちょっと問題かなと思ったので、他の方にもこういうことがあったってことを伝え、総務課にも相談しました。相談したのは福若補佐に相談しました。そして、江口さんが戻ってこられて、ちゃんと冷蔵庫に戻したということをお聞きして、一旦は安心してしまいました。そこでその日は帰ることになって、その日の夜中に、やっぱり不安になったので、保健センターの松本さんに夜に電話をかけて事情を話して、ワクチンが、一旦冷凍庫に入って、また、冷蔵庫に戻された件について、不安があるということをお伝えしました。そこから、やはり上の方にお話をした方がいいんじゃないかということで、金曜日の夜中でしたので、土曜日の朝に、濱坂さんが上の方の連絡先を知っているということで、相談して連絡を取るという判断をしてくれました。そこからは、私は、保健センターではなく、住民課で国民健康保険の担当をしておりますので、ワクチンの業務を担当するのは、その日だけという役割になっています。なので、資料なんかも保健センターから当初にいただいた資料のみで、勉強したり、自分でインターネットで調べて知識を得る程度のことしかありません。以上です。

○議長（新澤良文君） では、そのことについて、どのように指示若しくは対応されたのか、お聞かせください。

○証人（藤原香織君） まず、冷凍庫に入れることについては、その場で、冷蔵の方がいいのではないかというふうにお伝えしました。そのときには、その場にいたのは、プロジェクトリーダーと、補佐と、濱坂さんと、私と、江口さんです。

- 議長（新澤良文君） 通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。
- 証人（藤原香織君） そもそも論になるんですが、初めから医療用の冷蔵庫が来ると思っていたので、普通の一般家庭の冷蔵庫があって、驚きました。ただ、すぐに話し合いというか、リベルテで行うにあたって、保健師も交えて話をどういうように・・・、心配事とか、不安とか、ないかっていうのを少し話したことがありました。そのときに、冷蔵庫について、少し不安があるとお伝えしたときに、医療用の冷蔵庫をすぐにその日に、ネット検索などで電話をかけていただいたりしてお調べいただいたんですが、どうしても何週間もかかるということで、すぐに用意できないという結果に至っています。なので、医療用があれば、安心してワクチン接種ができたのではないかと思います。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人もそうなんですけども、藤原証人もデータロガーに対するデータがおかしいという証言をされておりますが、これはデータロガーの機械がおかしいんじゃないに、それぐらい家庭用の冷蔵庫の温度が安定していなかったというように考えられるのではないのでしょうか。
- 証人（藤原香織君） データロガーと普通の一般的な温度計の両方で確認をしましたので、それがどちらが正しいかというのは、ちょっと100%こうだとお答えできないんですが、データロガーが壊れているかもしれないので、見てほしいということで、江口さんをお願いして保健センターに持って帰っていただいて、それが故障していないかなど、お願いしたまでです。私は。
- 議長（新澤良文君） その後に、再冷凍と、証人も認めたと思うんですが、この再冷凍のワクチンが、住民に接種されたということについて、どう思われますか。
- 証人（藤原香織君） 自分の認識の中の知識が、最初からワクチン担当していたわけでもなく、そのときだけ保健師の医療職だからという感じの役割の関わりだけしかないので、深い知識が恥ずかしながらありませんでした。再冷凍かどうかを判断するというのは、私自身が行うことができないため、製薬会社さんと県の方に問い合わせをするという情報を聞きました。それで判断を促すのであれば、安心できるのではないかというふうに判断して、それをもとに接種を行ったというところで、あれは再冷凍ではなかったのであったというふうに認識しておりました。
- 議長（新澤良文君） 認識していたということなんですけども。先程、濱坂証人のところでもあったように、ご自身もリベルテホールの家庭用冷蔵庫では不安であったとおっしゃいました。医療用の冷蔵庫があれば、こんなことは起きないとおっし



やいました。その中で、そのワクチンを安定しない冷蔵庫に入れて保管したということについて、どう思われますか。

○証人（藤原香織君） 24時間を監視できる体制ではなく、家庭用の冷蔵庫が、どうしてこういうところで使えるのかという経緯についてもわからなかったので、初めからワクチンを担当していた保健センターの方にお聞きすると、医療用の冷蔵庫が、急にワクチンが始まって全国的に足りなくなり、そこでデータロガーを使って安定していれば使えるというところで、家庭用の冷蔵庫を使っている市町村はたくさんあるということをお聞きして、今ここで、いろいろ考えていても、そもそも冷蔵庫がないという状態で、どのようにしたらいいのかなという中で、棒の温度計の温度が一定であるというところを信頼せざるを得ない状況にありました。

○議長（新澤良文君） 棒の温度計というのは、先程、濱坂証人の方からもあったんですけども、24時間監視できません。このワクチンというのは、2度から8度の温度で管理しなければいけないということでございますので、棒の温度計をして24時間ということの担保は取れないと思うんですけども、その件についてお尋ねいたします。

○証人（藤原香織君） 24時間管理できないので、100%それが大丈夫かというのと、そのようには思いません。

○議長（新澤良文君） 保冷バッグで運んだということなんですけど。リベルテホールに行かれた時間は何時ぐらいで、保冷バッグから何時ぐらいに搬送されたんですか。

○証人（藤原香織君） 何時というのは、覚えていないんですが、帰ってから、5時15分をまわってからも話をしていたので、わりと夕方の遅い時間だったのかなというふうに認識しています。ワクチンを出すときには、その出して運んだ時間を記録しないとイケないので、保健センターには、その時間が残っているかなと。あと、プロジェクトチームのワクチンの運搬のところには、時間が残っているのではないかと思います。着いてからどうしようという話し合いをして、話をしながら冷凍庫に入れて、そこから役場に帰って、その後もどうしようかなということで、話をしていたので、時間的にいうと、すぐというわけではなかったのかなと思います。

○議長（新澤良文君） 保冷バッグで運んだ場合は、いくら専用の冷凍庫から保冷バッグに入れて運んだとしても、保冷バッグに入れた時点で冷蔵扱いになるワクチンであるということをお聞きされておりましたか。

○証人（藤原香織君） その辺は認識していましたが、そこで冷凍でも大丈夫である

うということで、冷凍になりました。

- 議長（新澤良文君） はい。今、話を聞くと、冷凍庫から保冷バッグで運んだと。時間も覚えてはいないけども、そこそこ時間も経過した中で、また、大丈夫ということで判断されて冷凍庫に入れられたということなんですが、今となっては どう思われますか。
- 証人（藤原香織君） もっと前の段階から、運搬の仕方だとか、ワクチンの保管だとか、もう少し専門で初めから携わっていた保健センターの方など交えて意見をもらいながら、体制を整えて、した方が良かったのではないかなと思います。
- 議長（新澤良文君） それでは、他に、高取町のワクチン接種の体制について、住民の皆様の安全安心を守るという観点から、お話ししておくべきことがございますか。
- 証人（藤原香織君） やはり、今までの経験などのある保健センターの方の意見なども踏まえて。あとは、プロジェクトチームは、他のお仕事と兼務の形で、かなり過重労働になられている中での判断とか。そういった形は、なかなか難しいのではないかな。というのは、私、同じ国保の事務の方がプロジェクトチームに行っておられるので、一緒にお仕事をしていて感じます。
- 議長（新澤良文君） それでは、藤原証人に対して、議会の皆さんから質問がございましたら挙手にて。森川副議長。
- 1番（森川彰久君） 多くの質問は、ないです。濱坂さんと冷蔵庫はダメだといったと。総務課の課長に言われたんですか。
- 議長（新澤良文君） 藤原証人。
- 証人（藤原香織君） ダメだというよりも、こういうのがちょっと心配があるというのを福若補佐に。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） 重要なことは、保健センターの、現場の意見を聞くべきだったということと、プロジェクトチームとの意思の疎通が図られていないと受け取れるような証言があったと思うんですけど。ご自身は、そのように思われたということでもいいですか。それとそのような話し合いがなされていなかった。この2点について、どう思われますか。
- 議長（新澤良文君） 藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 連携が取れていなかったかどうかは、私は存じ上げないので、わかりませんが。私と濱坂さんの立場からすると、全然、ワクチンに携わっていな

い状況で、この日に、この総括だとか、そういった役割として担当になったときに、やはり、どこまでの役割を、そもそも初めから関わっていない状況でできるのか、など不安がありました。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） どうも、急ぎ早に進められたのは、否めないような事実であると、わかったと思います。以上です。

○議長（新澤良文君） 他に質問のある方、おられますか。ないようでしたら、藤原証人に対する尋問を、これで終了いたします。

次に、植山証人に対する尋問を行います。ここで5分程度休憩します。

午後 3時16分 休憩

午後 3時20分 再開

○議長（新澤良文君） 再開いたします。

○議長（新澤良文君） 次に、植山証人の尋問を始めます。植山証人。証言台へ。宣誓書の朗読をお願いします。

○証人（植山みか子君） 宣誓書。私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓います。

○議長（新澤良文君） それでは、宣誓書に署名捺印をお願いいたします。

〔植山証人 宣誓書に署名、捺印〕

○議長（新澤良文君） 尚、皆さん、保健センターからは証拠を提出されております。証拠に基づいた説明もあると思いますので、書類の方の準備をお願いします。

○議長（新澤良文君） それでは、植山証人に対する尋問を始めます。まず、二度打ちなどの医療事故があり、隠蔽されているのではとの疑惑について、お尋ねします。まず、令和3年7月11日、保健センターでのワクチン接種について、知っていることをお話してください。

○証人（植山みか子君） 私は、7月4日午後から7月11日まで休んでおりました。この事象につきましては、7月12日出勤したときに、担当しておりました松本保健師より報告を受けました。報告を受けた内容としましては、午前中、接種した方に関しては、午前中に接種した人数、シール、接種に来られた人数、注射器等は全て合っていたんですが、それから、ロット番号が変わるまでの間の方で、注射器が一本余った。という報告を受けました。その事象がわかった時点で上司に相談し、その接種が終わった日の夕方にも、上司を含めまして、集まって。出席者については、町長、副町長、参事、総務課長、総合政策課長、総合政策課長補佐、福祉課長、

保健師の松本さんで、夕方、話し合われたということを聞いております。話し合われた結果については、特に、感染症対策、抗体検査等することの結果ではなく、経過観察をするということの結果であったということの報告を受けております。以上です。

- 議長（新澤良文君） 上司というときも、担当、名前等々、誰に報告した、誰から聞いた、というときも、名前等々言っていただけるようにお願いします。
- 議長（新澤良文君） 皆さんのお手元に証拠書類として提出されている伺書資料について。
- 証人（植山みか子君） このことにつきましては、保健師の松本の方が、7月11日付で報告すべき案件ということで、伺書の方、提出しておりますが、未だに帰ってきておりません。
- 議長（新澤良文君） それは、誰に提出をしているんですか。
- 証人（植山みか子君） 町長宛になっているかと思います。
- 議長（新澤良文君） それでは、次に、当日、接種しないで帰った人がいるという判断に至った経緯について、植山証人は当日、休んでいたということなんですけども、知っている範囲でお答えください。
- 証人（植山みか子君） この事象があつてから、帰られた方がいらっしゃるということもありましたので、当日、回収しました予診票、そこに接種のロット番号が貼られているかどうかなど、確認いたしております。接種された方、町内の方218名。町外の方4名。トータル222名の予診票に関しましては、保健センターにございます。なので、接種せずに帰られたということが考えられないと私は思っております。
- 議長（新澤良文君） 次に、そのことについて、どう指示もしくは対応されたのか、お聞かせください。
- 証人（植山みか子君） 私自身、やはり、感染症の検査。あと、抗体検査はするべきという考えがありましたので、この伺書がまだ帰ってきていないということもありましたので、私の直属の上司である榊井課長の方に、あの一件はどうなりましたかということは、お聞きさせていただきました。
- 議長（新澤良文君） その榊井課長の回答は、どういう回答でしたか。
- 証人（植山みか子君） まだ手元に、伺書を持っているというように聞いたと思います。
- 議長（新澤良文君） この件について、伺書は榊井課長から、その上の執行部に渡

っているということは、どう思われますか。

○証人（植山みか子君） それに関しては、松本の方が良く理解しているかと思いません。

○議長（新澤良文君） では、次に行きます。このような事案につきまして、通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。

○証人（植山みか子君） この事案がわかった時点で、当局が申しております、接種しなかった方がいたかもわからない、ということも含めて、本来、その日に調査すべきだったと考えます。調査した後は、先程申しましたように、感染症の検査、抗体が付いているかの検査、というのを対象の方にするべきことだと思っております。

○議長（新澤良文君） それでは、次に、令和3年8月1日、リベルテホールでのワクチン接種について、知っていることをお聞かせください。

○証人（植山みか子君） 申し訳ありませんが、私は体調不良と精神的にもちょっとしんどかった時期がありまして、7月29日から8月31日まで、休ませていただいております。なので、存じ上げません。

○議長（新澤良文君） では、この件について、まあ後で事案がわかるわけなんですけど、8月1日にシールがなくなったという事案について、通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。

○証人（植山みか子君） 先程から聞いておりますと、シールと接種の本数、接種した人数が……。シールじゃない。申し訳ありません。接種した人数と注射器の本数が合っているということなので、シールをなくしたということも、ひとつ考えられるということもありますし。ありえないかもわかりませんが、大きなリベルテの会場でやっておりますので、誰かが紛れ込んだかもわからないということも考えられるかもわかりません。接種券と予診票は、ご本人さんが持っていますので。もしかしたら、ここでやってるねやったら、打ってもらおうかな、という思いで来られて、予約なしで。もしかしたら、打たれた方がいらっしゃったかもわかりません。そういうこともあり得るかなと思ったりもします。

○議長（新澤良文君） あらゆる可能性もあるということなんですけども。二度打ち、カラ打ちという可能性もあるかと思うんですけども、どういうように認識されておりますか。

○証人（植山みか子君） 今、申しましたように、もし外部から入った方が打たれたということであれば、二度打ちが考えられます。

○議長（新澤良文君）　そうするならば、次に、再冷凍の疑惑について、知っていることをお聞かせください。

○証人（植山みか子君）　今日、証拠で出ささせていただきました、令和3年7月20日付の伺書をご覧ください。これに関しましては、令和3年7月16日、4時に、7月18日に使用するワクチン44バイアルを受け取りに来られました。急に来られたもので、準備しなければいけないということもありましたので、準備し、4時5分にディープフリーザーからワクチン44バイアルと、あと注射器、そのときに使う針、生理食塩水、と必要物品を確認し、お渡ししました。お渡しした後は、受け取りのサインというのをいただいております。受け取りのサインは、石尾課長からいただいております。プロジェクトチームリーダーとプロジェクトチームサブリーダーの前田補佐と、あと保健師の濱坂さんと藤原さんの4人で来られておりますので、保健師のお二人で注射器と針、生理食塩水を数えられていたと思います。数えて、リベルテホールに向かわれたのは、大体4時25分頃から30分あたりに向かわれました。その後、私、ちょっと残業することになりまして、保健センターに残っていたんですが、5時59分にプロジェクトチームの江口君から電話がありました。電話内容といたしましては、今回、受け渡した44バイアルのワクチンは、受け取りの際に超低温冷蔵庫から、ディープフリーザーから取り出したワクチンかどうかということを探ねられました。今まで、そのような質問をされたことがなかったので、不思議に思い、なぜそのようなことを聞いてくるのか問いました。そうしましたら、江口さんの方からの発言として、設置した冷蔵庫の温度が、マイナス3度や16度になるなど管理不安定のため、保冷バッグのワクチンをデータロガーで温度測定し、マイナス15度であった。そのためにマイナス18度の家庭用の冷蔵庫の付いている冷凍庫の方に入れた。との回答をされました。私は、厚生労働省のマニュアルでは、ディープフリーザーから保冷バッグに入れたワクチンについては、冷蔵扱いということをお願いしておりましたので、それは、冷蔵扱いのワクチンなので、冷凍してはいけない。冷凍したなら廃棄しないといけない。ということをお願いしました。もしかしたら、何かマニュアルが変わっているのかもしれないと思い、県にそのようなことをしてもいいか確認はしたのか。ということをお願いしました。そうしたら、確認はしていないという回答を受けました。そのワクチン自体を使用することで、ワクチン効果があるかわからないといわれていますので、使用することで誰が責任を取るのか。ということをお願いしました。上の方が取ってくれるでしょうと回答されました。受け取りの際にディープフリーザーから出したこ

とを伝えて、電話は切らせていただきました。そのワクチン自体を使用するという事は、やはり、できないということは、私自身思っておりますので、その夕方に、その当日に行く松本保健師の方に、当日のワクチンの入れ替えの必要性を伝えました。その後、基本型接種施設、ワクチンを出す施設なんですけど、保健センターの担当課長の榊井課長にも報告しなければいけないと思ひまして、榊井課長の方にも電話しましたが、運転中だったためつながらなかったもので、次に本部、感染症対策本部の芦高課長の方に電話をし、今回のことを伝えました。芦高課長からは、プロジェクトチームだと思われるんですが、冷凍庫に入れたと聞いているというような発言がありました。県への確認を依頼して電話を終了し、そのあとは、総務課長からは何も連絡はございませんでした。令和3年7月18日、薬液充填の担当であった松本保健師から、新しいワクチンを取りに行く準備をしていることの連絡を電話で受けました。私自身、ワクチンの保管管理者ですので、保健センターの方に出向かせていただきました。8時20分にサブリーダーの前田補佐と総括看護師の濱坂さんの二人で来られましたので、新たにワクチン44バイアルを受け渡し、サブリーダーの前田補佐には、7月16日に渡したワクチンを破棄する場合、報告書を出してもらいたいことを伝えましたが、「破棄するとは決まっていない。」という発言をされ、接種会場に向かわれました。そういう発言をされましたので、やや不安になり、8時29分になりまして、感染症対策本部の芦高課長にワクチンの受け渡しをしたことを報告して、7月16日に渡したワクチンを破棄する場合は、報告書を出してくださいと伝えました。総務課長からは、県にまだ確認できていないので、後日確認するとの回答を受けています。令和3年7月19日、保健センターにファックスが届きました。サブリーダーの前田補佐の署名で、ワクチンについては、ファイザーに問い合わせ、使えるということの回答を受けたという内容のファックスを受けました。保健センターの方も、当初、松本保健師の方に、このワクチンを使用できるかどうかを確認してほしいということをプロジェクトチームの本部の方からいわれていたということもありましたので、私も、松本保健師の方に、できれば確認してくださいと。ファイザーと厚生労働省と県の方にも確認してほしいとお願いしました。保健センターからファイザー社に問い合わせを入れたことを前田補佐の方に伝えたのですが、「いつ問い合わせをしたのか。」「担当者の名前は誰だったのか。」

「ワクチンを運んで、その後どうしたかは私自身が見ていないでしょう。」と大きな声で話をされました。その会話に関しては、ファックスが届きましたので電話してこ

られたというときの回答です。その電話のあと、副町長に電話をかけさせていただきました。保健センターでつかんだファイザー社、厚生労働省の回答等を伝えようとしたんですが、問い合わせをしたことの注意を受けました。そのときにサブリーダーが作成したワクチンの保存方法に関する相談について、という内容で、本部で検討した結果、ワクチンを使用する方向になった。ということをお伝えされました。以上です。

○議長（新澤良文君） はい。今、ご説明があった中で、証拠書類、伺書の中の3ページに、照会にかかる回答概要というのがございますが、これは保健センターの方から、この問題のワクチンについて、奈良県、ファイザー社、厚生労働省に連絡したということで、よろしいございますか。

○証人（植山みか子君） 先程、申しましたように、私自身がワクチンの保管管理者であることも含め、このワクチン自体を知ることがあるということがありますので、担当であった松本保健師に依頼し、指示し、調べてもらいました。

○議長（新澤良文君） 皆さん、お手元に資料のある方はわかると思うんですけども、まず、奈良県の方から、このワクチンは、どうしなければいけない。という回答がありましたか。

○証人（植山みか子君） 冷凍で出したとしても、移送手段が冷蔵であることから、冷蔵ワクチンとの認識。という回答でした。

○議長（新澤良文君） 県の方から、具体的に、どのようにしなければいけないという指示はございましたか。

○証人（植山みか子君） 常識的に考えれば、冷蔵の扱いをするべきということです。

○議長（新澤良文君） ということは、冷凍庫に入れた時点で、これはもう廃棄という取り扱い。そういうことも重ねて指導されましたか。

○証人（植山みか子君） この冷蔵の取り扱いが適しているということに答を合わせますと、そういうことに。私は、冷凍してはいけないという判断をしました。

○議長（新澤良文君） 次に、ファイザー社ですが、ファイザー社の回答はどうでしたか。

○証人（植山みか子君） ファイザー社に関しましては、保冷ボックスの仕様については、範疇外ということです。ただ、運ばれた温度等で、温度のことしか答えられない。ということでした。

○議長（新澤良文君） それを考えたときに、この問題の怪しいワクチンについては、ファイザー社の見解としては、どのような見解だと感じられましたか。



- 証人（植山みか子君） 渡しております資料の真ん中にもありますように、私も、この回答を見まして、再冷凍の安全性、有効性ともに確認しておらず、使用は避けるべきものという回答がありましたので、私自身は、ワクチンを破棄するべきものと思っております。
- 議長（新澤良文君） 次に、厚生労働省。これもワクチンの取り扱いについて、この今回の疑惑ワクチン、再冷凍ワクチンについて、問い合わせたということですが、厚生労働省の見解はどうですか。
- 証人（植山みか子君） 厚生労働省も他の2件と同じで、溶解した冷蔵扱いという判断です。責任が取れない。問題になる。とまで言われております。なので、ワクチン自体を破棄するべきではないかという担当者の考えは聞かれております。
- 議長（新澤良文君） これは全協でも、そうだったんですけども。執行部の方と現場の保健センターの方で、奈良県やファイザーに問い合わせた回答がずれております。この件について、植山証人はどう思われますか。
- 証人（植山みか子君） 私の考えですが、運んだ経緯、運び方、全てを会社と県の方に伝えたかどうか。運び方も含めてです。先程から出ておりますデータロガーを保冷ボックスに付けて搬送したのかどうか。等々含めてです。以上です。
- 議長（新澤良文君） 保健センターの方では、ありのままの事態を県とファイザー社と、あるいは厚生労働省に質問した上で、この回答をいただいたという事実があったということで、間違いございませんか。
- 証人（植山みか子君） 間違いありません。私が知っている事実をありのままに報告してもらったまで、です。
- 議長（新澤良文君） 次に、この伺書の中で、この伺書は榊井課長から上の中川町長の方まで届いているということでもいいんですか。
- 証人（植山みか子君） 申し訳ありません。私自身、この報告をしたときに、副町長に注意を受けましたので、上まで上げるべきか、ということも悩み、私自身、決裁権もありませんので、直属の上司である榊井課長には報告しておくべきということがありましたので、榊井課長までの伺書とさせていただきました。榊井課長の方からは、届いた時点で、この事案については、上に報告するべきことではないかと言われましたので、あとは、榊井課長にお任せいたします。ということで、榊井課長にお任せいたしました。
- 議長（新澤良文君） この概要の中に、中川町長から、コロナワクチン接種プロジェクトリーダーである石尾課長に対し、今回の件を奥村先生に等々と書いてあるん

ですけど、これはプロジェクトリーダーの方の、このときの処理の仕方を概要に添えられたということですね。

- 証人（植山みか子君） 私自身は、ここには書いておりません。概要のところには、書いておりません。課長の方にお任せしましたという段階で、榊井課長の方が動かれての結果だと思えます。
- 議長（新澤良文君） それでは、次に、この再冷凍の疑惑については、通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。
- 証人（植山みか子君） 再冷凍とわかった時点で、ワクチンを破棄し、打つべきではなかったとっております。打ってしまったのであれば、抗体検査等をするべきことの事案になります。
- 議長（新澤良文君） これは、濱坂証人、藤原証人、植山証人という医療に従事されている方、全てが再冷凍ワクチンについては、打つべきではなかったと認識。そして、打ってしまった場合は、抗体検査。との認識が示されたところでございます。他に、高取町のワクチン接種において、この場で町民の皆様の安全安心を守るために、どうしても言っておかなければいけないことがあれば、今まで言えなかったこと等ございましたら、お聞かせください。
- 証人（植山みか子君） 先程から出ております、家庭用冷蔵庫の温度が不安定ということですが、冷蔵庫が入った時点で、マニュアルの方では、安定しているかどうかということが確認が得られれば、ということがあったかと思えます。そのために冷蔵庫が入った時点で、プロジェクトチームの方にはデータロガーをお貸しし、安定するかどうかを検証するように申しました。その結果は、皆さんお持ちだと思います。もし、その時点で不安定ということであれば、先程、濱坂保健師、藤原保健師がおっしゃっていたように、当日、保健センターから搬入するべきであったかもわかりません。それと、今回、こういう対象に当たられた方に関しては、本当に、早急に感染症の検査、抗体検査等をしていただきたいという思いでいっぱいです。以上です。
- 議長（新澤良文君） ちょっと、ひとつ、執行部の方では感染症の検査においては、C型肝炎、B型肝炎の検査を考慮おられる様子ですけど、エイズ等々他の検査はしなくていいんですか。
- 証人（植山みか子君） 針刺し事故マニュアルというものを出されている他の市町村は、ございます。その中では、B型肝炎、C型肝炎だけでなく、エイズはほとんどの市町村で入っております。あと、プラス梅毒。最近、梅毒も多くなっております。

す。梅毒の検査も入れるべきだと私は思います。

○議長（新澤良文君） それでは、植山証人に対する議会議員の皆様の質問をお受けします。森川副議長。

○1番（森川彰久君） 植山証人の証言で、かなり核心部分の説明が得られたと思います。まず、逆に、副町長にダメだということを説明したら、逆に注意されたという証言もされましたが、この証言をお聞きになって、榊井課長に最終的に一任されたということになった。ご自身の気持ちとして、正直なところ注意されたことに対して、どう思われましたか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） なぜ、注意されなければいけないのか、という思いは持ちました。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 何度も申し入れをしたのですが、責任は上の方が取るとか、そういう回答もかなりあったように思います。正確な質問をして回答を求めると。先程からも、私、何度も質問しておるんですが、ファイザー社や奈良県や厚労省に事実と異なる説明を求めても、違った回答が返ってくる。逆に、今の状態を説明したら、そんなのダメでしょうという回答が返ってくるのが、普通に考える、我々の考え方なんですけど。その点、問題ないという回答が返ってきたということに対して、どう思われますか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 聞かれた会社、厚生労働省にも聞かれたかもわかりませんが、どのように質問されたのか。ということ、私自身、反対にお聞きしたいです。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） その点、正確にはファックス等で回答いただくのが一番いいんですけど、植山所長、もしくは松本さん。後から、松本さんに証言いただきますが、ファイザー社からの回答は、口頭ですか。文書はないんですか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） この回答につきましては、電話で聞き取りしていただいておりますので、文書ではございません。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 最後に、対象者の中の28日の接種は、実は私も入っているんですけど、再冷凍の分でね。早急に感染症の検査や抗体検査をするべきだということ

とで、証言されました。私も医療関係に従事する知り合いもたくさんおりますので、簡単な説明で、こういうことをお聞きしたら、一応、経過日数がかなりたっており、ということで、7月11日、もしくは私やったら7月28日。現在、もう9月21日ですのでね。だから再検査はもうできないと。血液検査については。抗体検査については、有識者との協議の必要があって、その対処が困難であると。高齢者の場合は、潜在的に感染症をお持ちの方がおられるとかね。過去に、既に医療機関で感染症が判明している方とか。そういうことをいろいろ総合的に考えたら、やはり、そういう専門的な有識者を交えて進めていかなければいけないと。この二点について、どう思われますか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 森川副議長のおっしゃるとおりです。

○議長（新澤良文君） 他に、植山証人に対する質問のある方は、いらっしゃいますか。新澤（にいざわ）議員

○8番（新澤明美君） 先程からの皆さんの、保健師さんの話を聞いていますと、専門家ですよ。専門家から専門でない人達にいろいろ提言していても、なかなか聞き入れてもらえないという状況が、実際にあったのかなと思うんですけど。コロナ対策のワクチン接種をしていくというのは、医療的にどうなのかということが一番大事なことだと思うんですけど。その辺、プロジェクトチームは普通の事務で、課長を置いているわけなんですけども、医療関係の保健センターの職員たちが、位置としてどういう形で扱われてきたのか。それと、医療的な研修について、どういう方法で進められて、ワクチン接種に臨んできたのか。とても見えにくくて、その辺について、ご説明いただけたらと思います。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 医療関係者の研修といたしますのも、国、県等で、これの接種に関するズーム会議というのが定期的に行われておりました。私たちは、保健センターの方で、松本保健師と二人でそのズーム会議を見て勉強している状況になります。保健センターは、今二人です。あと、その会議があることにつきましては、本部の方にもお伝えさせていただいております。私自身、この感染症対策本部にも途中から委員として参加するよういわれましたし、プロジェクトチームのメンバーでもあります。ただ、自分自身、思うところは、プロジェクトチームとしての仕事というのは、ほぼなかったというように思います。当初、プロジェクトチームに入るときには、保健センターの状況を報告してもらいたいということで、プロジェ

クトチームに入ってほしいということを私は聞かされておりましたので、保健センターで行う予防接種の状況の報告ということだと思っておりました。

○議長（新澤良文君） 新澤（にいざわ）議員。

○8番（新澤明美君） もう一度聞きますけど、プロジェクトチームというのがつくられたのは、あの方からだったと思うんですけど。実際のところ、ワクチン接種にあたっては、

様々な研修を受けてこられたということですけど。そういう医療的なことをプロジェクトチームのトップは、医療関係者じゃないわけですからね。その辺を共通理解できるような研修の場は全くなかったわけですか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 町としては、そのような大きな研修というのは、持たれていませんでした。

○議長（新澤良文君） 新澤（にいざわ）議員。

○8番（新澤明美君） ここで何も断言できないんですが。専門家の医療的な意向が全然聞かされていないというのが。どういうチームで動いているのかというのが。それと、ここ二人だけといいましたでしょ。二人だけと。それで、こちらの二人は、基本的には通常はワクチン業務にあらず、リベルテのときだけ行ったという状況があるんでね。通常業務がかなり大変な状況でワクチン接種が進んできたというのは、私は十分認識しているつもりなんですね。その辺について、ずっとワクチン接種と通常業務をやりながら、実際に、こちら側の庁舎側の業務とそちらの医療業務との間で、十分な意思疎通が、先程の研修も含めて、できていなかったというふう

に認識させてもらったらよろしいですか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 認識していただいても間違いはないと思います。

○議長（新澤良文君） 他に、西川議員。

○2番（西川侑彦君） すみません。僕も流れが把握できていない状況で質問させていただくんですけど。プロジェクトチームって、いつから立ち上がって、どのメンバーがいて、植山証人自身は、いつ入られたか。ということをお聞かせ願いたいんですけども。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） プロジェクトチームは、5月1日に立ち上がりました。プロジェクトチームのメンバーは、リーダーである石尾課長。サブリーダーの前田補

佐。サブリーダーの私。チームのメンバーとして、橋本さんと江口さんの5名です。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） 植山証人も入っておられたということですが。橋本さんってどなたですか。この流れの中で、今初めて聞いたので。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 先程、藤原保健師が申しました、国民健康保険で一緒に担当しているという住民課にいる橋本さんです。

○議長（新澤良文君） 他に、質問のある方がいらっしゃったら、お受けします。森下議員。

○7番（森下 明君） 二点、お伺いいたします。議長の方から、8月の大規模接種のときに、二度打ちされたとしたら、どういう可能性がありますか。という質問の中で、当日、予約してないで、外部から紛れ込んで打たれたとしたら。という回答がありました。これ実際に、そういうことが可能やと思って発言されたのでしょうか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 出入口、その他の入り口が閉められているのであれば、入る余地はないと思うんですけど。裏口等々開いていけば、そういうことも考えられるかもわからないと思ひまして、発言させていただきました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 申込予約の方の名前と、シールと合っているという中で、先程、証言を終わられておりますが、あえて、これ議長いいですかね。この人達の責任において、行われた予防接種の中で、予約していない二人の人間が紛れ込んで、打たれたとしたら、二度打ちの可能性もあります。という証言をしゃはった。それについては、これ責任を持った発言ですか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 考えられることを申し上げるようと言われましたので、申し上げたのみです。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 紛れ込まれて、二人の人間が打たれた。ということを確認をもって言うたはるわけやないですね。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 可能性のあることっていうことも言われましたので、その

ように申し上げたまでです。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） ある意味、責任を持って担当していた人間からすると、私ら、そんないい加減なことしてないよ。という部分もあるかと思いますが。今ちょっと、確認しましたので、それでいいです。それと、もう一点、お伺いいたします。7月11日の接種について、私も、あの場所で二回接種をさせていただきました。一番初めと三週間後ということで。私も、嫁も、おふくろも。三人で受けております。その中で、一番、私自身が気になったのは導線でした。僕の一回目、非常に混雑して、流れも悪くって。ご存知ですよ。その場に、いてはったから。初めの20人位、非常に時間がかかったんですよ。何とかならへんのか。と言うたことも覚えていただいていると思うんですが。その中で、私も、初めに自分自身の確認をされました。その後、先生に問診を受けました。入口で、接種前に、接種済証に日と時間を書かれたシールを貼られました。そして、接種場所へ進みました。この導線については、どうですか。正しかったとお考えでしょうか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 本来であれば、接種が終わってからシールを貼るという流れであったかと思います。ただ、その導線を取りにくいということがありましたので、あのような導線にさせていただきました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） なぜ、こういうことをお伺いしたかということになりますと、僕は、二度打ちの可能性がゼロとは申しませんが、これ、導線のために、接種していない人が、接種済のシールを貼られて並んでおられた。という中での間違いが起きていた可能性もあるんじゃないか。それも否定できないのではないかと思います。否定できますか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 受付から、先生の間診のお部屋に行かれたあと、1.5メートル程度のところに、ロットの番号を貼る机を設置しております。そこでロットの番号を貼らせていただいてから、中に入られた段階で接種券と予診票を番号の書いたファイルに挟んで、行っていただいていると思います。その番号を、中に入ったかどうかの確認のチェックを中で入れていただいております。なので、接種券を貼って、そのまま外に出るということになりますと、中でチェックしていただいている番号が抜けます。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） その導線の中で、接種済シールを貼ったまま、そこから抜かれて、お帰りになるということは100%ないという認識でいいんでしょうか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 100%。その挟んでいるファイルに付いている番号のチェックを、接種する会場、待機場所に入った時点でチェックを入れますので、その人が打ったかどうかの確認も、中で一人、チェックするように、一人スタッフを置いていますので、私自身は、ないと思います。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 私と妻と母親と、三人で出向きました。母親については、ちょっとボケてるとは申しませんが、ちょっと微妙な状況でございまして。あのときも、問診を受けたあと、接種済のシールを貼っていただいてから、トイレに行きたいと。そんな中で、10分ぐらい我慢できへんかという中で、できるということで、中に入って接種をして、待機場所へ行って、終わったら、もう帰るって。トイレ行きたかったんと違うんか、と言うたら、もうトイレに行きたかったことは忘れていたんです。そういうことで、一人で行かせてたら、えらいことやったなど。ある意味ですよ。接種済のシールを貼って、トイレに行きたいからといって、ウロウロとトイレに行ったりしていたら、それこそ導線の中で、おかしなことになったのではないか、という危惧も現実になりました。そういうことも含めて、そういうことの可能性は本当になかったんでしょうか。というふうに申し上げました。いかがでしょうか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 先程も申し上げておりますように、接種するお部屋に入った段階で、その方の持っているファイル番号を消す作業をしております。そのお部屋に入っていない方のファイル番号は、消えません。なので、そこに行っていないという事実が、それでわかります。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 了解しました。

○議長（新澤良文君） 私の方から、一点、質問させていただきます。このカラ打ちが、注射器の余りが発覚した時点で、行政もしくは一部の議員が、二度打ち、カラ打ちよりも、先程申されたように行方不明、途中で帰られた方の可能性を申されたことに対して、証人は、どう思われますか。



○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 私自身は、本当に医療関係者ですので、どうにかして、この人達の命を守りたいと思って、感染症の検査と抗体がちゃんと付いているかどうかの検査をしてほしいという思いだけなんです。ただ、それだけなんです。私自身は、本当に、それができなかつたということで、一カ月休みました。すみません。しんどくなりました。自分自身、医療関係者でおってはいけない。という思いを持ちました。住民さんの命を守ってください。お願いします。

○議長（新澤良文君） 他に、ご質問のある方。西川議員。

○2番（西川侑壱君） 何度も、すみません。今の話に関連してなんですけども。予診票にシールを貼って、接種の場所で、問診されているかも含めて、確認されて、名前を消されるという作業をされていたと。保健センターの方では。ということなんですけど。ここからリベルテの方に話が派生して申し訳ないんですけど。リベルテの方で、今の話を聞いた上で、外部から入ってくる可能性って、相当難しいんじゃないかと思って聞いていたんですけども。その点に関しては、いかがですか。接種場所の中で、ちゃんと予診票があるかどうかというのを。リベルテの方で、どういう体制を取られていて、どういうチェック体制で動いていたかということ、リベルテ、保健センター、それぞれ説明していただいていいですか。

○議長（新澤良文君） 植山証人。

○証人（植山みか子君） 申し訳ありません。私と松本の方は、ほぼ、リベルテホールに関しては、接種に携わった回数というのは、一日、もしくは二日、程度しかありません。それも総括的などころではなく、薬液充填というところにいた状況です。なので、リベルテホールの受付の流れ等々、申し訳ありませんが、プロジェクトチームのメンバーでありながら、きれいに把握しているかといわれると、私自身、把握しておりません。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） 単純に、思ったことだけだったんですけど。それ自身をプロジェクトチーム全体で共有できていないというのは、やはり、ちょっと問題かと僕自身思います。

○議長（新澤良文君） 私の方から、一点、質問させていただきますけども。カラ打ち、あるいは先程、あれっと思うような発言があった森下議員と同じように、他所から、外部から、ということがあったんですけど。可能性は低いと思うんですけど。行政として1%の可能性でもあれば、そういうワクチンの注射器が余ったりだとか、

あるいは接種済シールが余ったりだとかした場合は、そういう可能性も考えてということで、発言されたということで、よろしいございますか。植山証人。

○証人（植山みか子君） はい。そのとおりです。

○議長（新澤良文君） 他に、何か植山証人に対するご質問のある方がいらっしゃったら、お受けします。よろしいございますか。

それでは、次に、松本証人の尋問を5分後に行います。植山証人、お帰りください。5分間休憩。

午後4時15分 休憩

午後4時28分 再開

○議長（新澤良文君） 再開いたします。

○議長（新澤良文君） 次に、松本証人の尋問を行います。松本証人。尋問席へ。宣誓書の朗読をお願いします。

○証人（松本聖子君） 宣誓書。私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓います。

○議長（新澤良文君） それでは、宣誓書に署名捺印をお願いいたします。

〔松本証人 宣誓書に署名、捺印〕

○議長（新澤良文君） それでは、松本証人に対する尋問を行います。まず、二度打ち等の医療事故があり、隠蔽されているのでは、との疑惑について、お尋ねします。令和3年7月11日、保健センターでのワクチン接種について、知っていることをお聞かせください。

松本証人。

○証人（松本聖子君） 資料として、お手元に印刷配布いただいております資料をご覧いただきながら、お聞きいただければと思います。7月11日、保健センターでの接種時、町保健師、保健職、私一名での対応となっておりました。状況的には、ご指摘が今までありますとおり、一本のシリンジが余るという事態が発生しました。その対応について、おそらく2時20分頃、会場総括の石尾課長、及び場内管理者の榊井課長に疑義の発生として、報告の第一報を上げました。ただ、接種途中ということもありまして、予約時間に住民の方が次々来られる状況でもありましたので、一旦、受付を止め、新しいワクチンロットを使う準備を整え、再開し、その当日は、通常どおり接種業務を夕方まで行いました。終了後、私の記録では、夕方5時50分頃から、対応の協議ということで町長をはじめ副町長、参事、総務課長、福祉課長、総合政策課長、総合政策課長補佐、そして町保健師の私、での協議をしたと記

録しております。6時半頃まで協議の方が続きましたが、資料の状況概要というものをご覧ください。当日、夕方の会議で決定された内容としては、聞き合わせの状況、当日スタッフ全てに聞き合わせを私が行いました。その状況整理の結果、注射器が一本残る事実以外に、事故と思われる事象がないことから、関係首脳部、出席者の共通認識下において、経過観察という判断になりました。法で求められている、マニュアルに載っている県等への報告は見送ること。関係機関から問い合わせがあった場合の対応を質問しましたら、本協議の決定事項を回答内容として対応すること。接種記録については、未接種の方が含まれる可能性が否定しえない中、書類記録上の結果を記録として保管すること。本事業にかかる清算。本事業は、国庫負担金の該当事業になります。接種していない人を摂取したと見なして処理を進めるとのこと。などについて決定されたと理解しました。ことがあまりにも重大でしたので、これは伺わなければいけない。経過観察ということになりましたが、具体的な目途も方法も、そのときに決まったわけではなかったもので、11日付で伺書を作成し、翌週の間には榊井課長に持参しました。私の認識違いが文字として残ってはいけません。そう思ったので、内容を見てほしい、ということで手渡しで伺ったように記憶しています。その伺書をもって、必要と思われる内容と町保健師の私が会議中に進言した内容を改めて記載し、再検討をお願いしたいということで、申し出をしました。申し出をしましたが、伺書が返ってくることもなく、そのまま日時ばかりが経過してしまい、何も動きがとれなかった期間というのがあります。当日の会議の終了後、もう一度カウントしようと、榊井課長と町職の私が残って、当日の予診票を二人で、二度、三度と読み合わせを行いました。誰か一人、数え間違えていたらいいのにな、という思いの中で読み合わせをしましたが、一本が残るという数に齟齬はなく、この事案が発生したことを改めて確認する作業になりました。当日の流れは、以上です。

○議長（新澤良文君） それでは、そのことについて、どう指示若しくは対応されたのか。重複になるかわかりませんが、お聞かせください。松本証人。

○証人（松本聖子君） 経過観察という上からの指示がありましたので、伺書決裁を通してからの報告にしようと思い、お手元に資料として配っていただいております。国指定の報告書様式の方を作成し、伺書に添付をいたしました。間違いの原因と概要など、当日行われた協議の内容を反映した第一報の報告書になっていると思われる。こちらの提出についても、伺書を持参したときに、指示を仰ぎましたが、決裁がおおりるまで提出していない状態ですねということの確認で、その場は終わって

しまいました。

○議長（新澤良文君） 通常、どのようにしなければならないと認識されておりますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 関係者の協議のときにも、59名全員に電話をして、聞き合わせを行う必要があるのではないかと。いろいろご意見をいただいて、協議が進んだものと記憶しています。実務者レベルでは、ご高齢の方が対象の回でしたので、「打ちましたか。」では、打った気分になっている人がいるかもしれない。だから、「接種済のちいっちゃいハンコが肩についていますか。」と聞いたらわかるかな。そういうような話も実務者の方では、しておりました。ですが、経過を見る。ご本人の申し出を待つ。という方向になりましたので、本来、すべきであった当日の間の聞き合わせという作業が取れなかったこと。あと、その方がいらっしやらないという判断を、どのタイミングでとれるか。というのがわからないのですが。二回接種してしまうと、免疫の抗体価を調べるにも、難しい状況が想定されましたので、早急に該当の方に状況を説明し、検査を受けていただく段取りを進めるべきだったと考えています。

○議長（新澤良文君） ここで、週刊新潮の誌面にもございました、カラ打ちという事案について、お尋ねします。こういうことの発生した可能性については、どうお考えですか。

松本証人。

○証人（松本聖子君） 誰か一人が打たなかったという可能性というのは、極めて低いという認識は、現場にいたものの直観として、主観として、持ちました。一本シリンジが余るという時点で、担当した看護師さん。予診のみで帰られた方がいなかったか、当日のドクターに聞き合わせをしましたが、そういう案件は、お一人だけいらっしやったんですけど、その人を差し引いたとしても、数が合わない。この事実がある。また、事実関係の調査に時間がかかるのであれば、一本ワクチンが残っている、この時点で動くに十分たる物証じゃないかなというふうに感じました。

○議長（新澤良文君） 今、少し触れられましたけども、一人そういう方がいらっしやったということで、よろしいございますか。その方は、ワクチンを接種せずにキャンセルされたということで、よろしいございますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） その方は、体調不良の訴えが入館当初からございましたので、医師に診察を受けていただき、予診のみとの扱いで、接種せずにお帰りいただいております。

○議長（新澤良文君） 一本の注射器が余ったという事案については、いろんな可能性が考えられる中で、二度打ち、カラ打ちの可能性が高いという認識で、よろしいございますか。

松本証人。

○証人（松本聖子君） 私自身は、そのように感じました。

○議長（新澤良文君） 次に、令和3年8月1日、リベルテホールのワクチン接種についてお尋ねします。この日は、大変子どもたちも多く接種した日であります。私もそのように記憶しているんですけど、知っていることをお話してください。松本証人。

○証人（松本聖子君） 8月1日のリベルテホールでのワクチン接種については、当日、従事しておりませんでした。ただ、事前のワクチンの準備等で当日のスタッフと話をする機会もあり、大きな人数を扱う接種会場なので大変やね、という言葉をお互いに交わしたのは覚えています。実施後、いつお聞きしたかまでは記憶にないんですけど、二枚シールが足らなかった。不足した。紛失したのでは、ということで、当日スタッフは大変バタバタと確認作業に動かれたというふうに聞きました。ワクチンの使用に関しては、県の方から、残数調査というものが随時行われておりまして、何本を廃棄したのか、何本を使ったのか、というところの数のカウントが必要でしたので、廃棄した二本について、濱坂保健師からお話を聞きました。一本は、バイアルシールがないということで、接種できないので廃棄した。もう一本は、接種時に液漏れのようなことでトラブルがあったので、代替としてシリンジを一本出した。このように聞いております。

○議長（新澤良文君） 液漏れ等の事案が発生したときは、普通はそのときの接種券と接種済のシールを一緒に廃棄するようなマニュアルになっていると聞いていますけども。それはどうですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） マニュアルに、液漏れの場合は、という文言があった記憶は、あまりないんですけど、実際、シリンジと接種シールは一对のもので、先程、濱坂保健師よりお話ありましたとおり、廃棄するとなった時点で接種シールが引き上げられているという対応は、当然だと思います。

○議長（新澤良文君） このときには、リベルテホールでは従事していないということなんですけども。このことについて、どう指示若しくは対応されたのか、ご存知ですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 8月1日の件について、特別私が指示を受けたことはござい

ません。

○議長（新澤良文君） それでは、この件がわかった時点で、結構でございます。通常、このような場合、どのようにしなければならないと認識されておりますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） どういう確認作業が行われ、どういう導線で、何時に事案が発生したのか。全くわからない中ですので。シールが二枚足りないという事実を知ったときは、何がどうなったのか。本当に想定外の出来事でありました。なので、当日、現場対応のスタッフも苦慮されたことは、想像に難くない印象を持っています。ただ、入館者、接種者、予診票の数。それら全てを突合して、きちんと確認作業を行うという作業が行われているということが、確認をしっかりとできるのであれば、いいのではないかと。そこで、疑義が残るようであれば、きっちりと可能性を潰していく調査が必要になろうかと思えます。

○議長（新澤良文君） 先程も申しましたけども、やはり、この日は子どもたちも沢山接種した。また、教職員の方も多かったと承知しております。そのような中で、接種済シールがなく、注射器が二本残ったという事案でございます。先程、液漏れで、残ったやつも一本使用したとおっしゃいましたけども。先程、私も申しましたとおり、液漏れした注射器は廃棄ということですので、その時点でシールもセットで廃棄ということになります。それでよろしいございますか。そうするならば、シールは三枚足りなかったということになりますが、どうなんですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。廃棄するべき液漏れのあったシリンジを引き上げる際に、接種済のシールを引き上げ損ねていたのであれば、二枚足りないところが、一枚不足することになるのかなど。すみません。今、状況をお聞きして考えておりますので、思い違いが含まれているかもわかりませんが。二枚シールが足りない。そのうちの一本を液漏れのトラブルのあったシリンジに代替されたということで、一本が新品のまま廃棄されたというふうに考えます。

○議長（新澤良文君） じゃなしに、液漏れしたシリンジについて、ですね。これを廃棄されたときに、接種済シールとシリンジは一对ということなので、一緒に廃棄しているという認識でいいんですか。その辺は、どうですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） その対応に、当然なろうかと思えます。

○議長（新澤良文君） そうなれば、シールが足らなかったのは二枚じゃなくなるんじゃないですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） シリンジも廃棄をされているので、過不足が出ないのではな

いかと感じました。

○議長（新澤良文君） わかりました。では、再冷凍について、お尋ねします。再冷凍があったのではないか、という疑惑について、知っていることをお話しください。松本証人。

○証人（松本聖子君） 18日、リベルテホール接種開始日に、私は薬液充填の担当として業務につく予定でしたので、16日にワクチンを搬送される際、また、それ以降、先程の藤原保健師、濱坂保健師からもあった状況のとおり、4名で取りに来られ、4時25分そのあたりの時間に保健センターを出発されたと記憶しています。夕方に、植山所長の方から、再冷凍の可能性がある。要注意である。という一報を受け、状況的に理解が追いつかなかったんですけども。冷凍庫に入ってしまった事実があるということで、かねてからの厚労省のマニュアルどおり、廃棄になるんだと感じました。その後、16日。藤原保健師と電話でも話をし、状況も聞き、考えられる可能性をいろいろ考えましたけれども、再冷凍に該当してしまうのではないかと、ということで、18日の当日の朝、新しいワクチンが出されるということを知ったときは、本当に安心しました。当日の接種終了後、6時頃からだだったと思いますが、委託業者も交えて反省会のようなミーティングの後、町職員だけが残し、金曜日に搬入したワクチン44本の扱いについて、協議が始まりました。実際にワクチンを搬送されたスタッフの方から、説明がありました。5時頃にリベルテホールの冷凍庫に入れたということ。そのときは、保冷ボックスに入っている時間は5分程度かと。また、冷凍庫に搬入時の保冷ボックスの温度は、マイナス16度であると確認したと。その後、疑義が生じたため、冷蔵庫に入れなおす作業をした。との説明を受けました。このとき町長より、リスクのあるワクチンは、廃棄するべきで、むしろ今後の接種計画に影響がないかが懸念される。というような発言があったのを記憶しています。またワクチンの移送に関しては、これまで高齢者施設などのスタッフもマニュアルを遵守して行っている業務であり、保健師以外の看護師であっても対応可能な業務ではないか。というご指摘も受けました。個人的には、全くそのとおりであると感じました。この協議の際、今回の事象の原因としては、購入した冷蔵庫の温度管理が不安定であること。また、ワクチンの取り扱いを、保健センターが正しく伝えなかった点が、課題ではなからうか。とのご指摘も受けました。冷蔵庫に残る44本の疑義ワクチンについては、町長より、接種会場のワクチンの安全性を確認すること。今後は、マニュアルを遵守するよう指示がありました。このワクチンの安全性の確認については、当初、プロジェクトチームの方に確認の指

示がございましたが、前田サブリーダーさんから、私に確認するようにと指示を受け、月曜日、朝一番には確認作業に入ろうと、19日の月曜日、始業前ですか、ファイザー社の方にアクセスすることを試みました。ですが、朝の8時30分前であったと思います。前田課長補佐からお電話をいただきまして、この件については、プロジェクトチームで確認を取るの、保健センターは動かないで良い。という指示でした。ですので、半日ほどは、確認作業はプロジェクトチームの方に任せ、通常の業務の方に就いておりました。県の方との、ワクチン接種チームとのやり取りというのは、本事業が始まってから、幾度となくしておりまして、お昼、1時をまわってからです。県の方に連絡を取りました。そのときに、午前中からも高取町から問い合わせがあった。というようなことでお話が出ました。ワクチン精度について、県では回答しかねるから、ファイザー社に確認するよう指示をして、昼頃には、ファイザーからも大丈夫との回答がありました。と報告がありましたよと教えられました。そのとき、私は、今まで従事してきた認識に大きな間違いがあったのか。ワクチンを移送する手段、温度、方法を私は勘違いしていたのかと思い、ファイザー社の方に、マニュアル取り扱いの改訂はなかったか。自分の認識は正しいのか。問い合わせを行いました。ファイザー社と厚生労働省、それから県の方と。関係して、今まで指示を受けていた各所に問い合わせを行いました。得た回答は、先程、植山所長の証言のとおりですので、割愛させていただきます。質問内容が把握できないまま、違う回答を得ることになってしまったので、このことを急ぎ上に伝えなければならぬということで、副町長にご連絡をさせていただきました。その際、プロジェクトチームが対応すると判断している事案について、報告なく勝手に照会をかけた点について、注意を受け、担当保健師の松本の照会内容を確認したいということで、副町長に呼び出されましたので、4時半頃でしたが伺いました。副町長より、発言内容の確認を求められましたので、得た内容を口頭でお伝えしました。そこには石尾課長が同席されており、実際に担当した自分が聞いた内容と、何も見ていない、ちょっと聞いただけの私が得た内容では、精度が違う。正確さが違う。ということで、大丈夫という回答を得ていると。私のお伝えした内容については、特に触れられることはなく、私が認識違いをして、業務を阻害したことについてのお叱りも特にはありませんでした。私の認識が正しいと、県からも回答を得ているとお伝えしましたが、勝手に各所に照会をかけることは、高取町の不審を招きかねない軽率な行為であると。今後、何か照会するときには、プロジェクトチームの方に報告してから聞くようにしなさいと。その日は、そのような指示を受け、副町長室



を出しました。このワクチンを21日に使う決定がされたということを聞いたときは、怖くて仕方なかったのですが、このいきさつがあった後でしたので、何も対応や動きをとることができませんでした。以上です。

○議長（新澤良文君） 今、どう指示若しくは対応されたのか。ということもお答えいただいたのですが、この件について、どう指示若しくは対応されたのか。お聞かせください。松本証人。

○証人（松本聖子君） はい。すみません。今、長く答えてしまった中に、私が取った対応も含まれていたかと思います。関係各所に確認を自分の声で口頭で取り、上に報告を上げました。

○議長（新澤良文君） それでは、通常どのようにしなければならないと認識されておりますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 厚生労働省の担当者に確認したところ、答はすごく明瞭で、私自身もすごく納得しました。保証のできないワクチンを使うということは、人体に使用するものであることから、責任が取れない問題になりますよね。該当するワクチンが何本あるのかわかりませんが、申し訳ないけど廃棄するべきではないですかと。私も、そのように感じました。

○議長（新澤良文君） ここで、お尋ねします。保健センターからリベルテホールの家庭用の冷蔵庫に保管されたワクチン。これ、対象者1,235名の方が、安定しない家庭用冷蔵庫で保管されたワクチンを接種されたということにあたるわけですが、この件について、どう思われますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 当日のワクチン接種に従事した先程の保健師も言われておりましたとおり、自分の確認のために自分の従事している間の温度を確認したにすぎず、100%の安全性を担保できるものではないと考えています。

○議長（新澤良文君） だから、どう思われますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） ワクチンの抗体価が、確実に住民さんの体に入っているのかどうか確認していく作業というのが、住民の方が最も安心される方法ではないかと思います。

○議長（新澤良文君） はい。そうしましたら、このワクチン。単純にお尋ねいたします。再冷凍。一旦、解凍されて、冷蔵扱いになったワクチンを再冷凍された。そのワクチンをまた、解凍して打った。ということに対して、人体的な後遺症等、危険性はないですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） これは、ファイザー社に問い合わせした際、再冷凍のワクチ

ンを使用することの安全性、有効性は、ともに未確認。確認作業をしておらず、科学的なデータも何もないため、使用は避けるべきもの。と聞いておりますので、私も、そのように考えます。

○議長（新澤良文君） それでは、この再冷凍のワクチン。そして、温度の安定しない家庭用冷蔵庫で冷蔵されていて、住民に接種されたワクチンについても、そうでございますが。この温度の安定しない冷蔵庫で保管されたワクチンを接種された住民に対する後遺症等々、考えられることはございませんか。松本証人。

○証人（松本聖子君） まず、免疫の獲得の保証がないことが、かねてから国やファイザー社の示されている資料のとおりかと思えます。その上で、健康被害がどの程度発生するのか。それは、製造元のファイザー社も未確認の状態であることから、私からは、話しかねます。

○議長（新澤良文君） 5時を回りますけど、引き続き証人に証言をいただくということで、よろしいございますか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） それでは、他に、高取町のコロナワクチン接種において、この場で、住民の皆さんの安全安心を守るために、申し述べておく話等々がございましたら、お聞かせください。松本証人。

○証人（松本聖子君） 端的に、この事象があったという認識は、現在、私は持ち合わせておりません。ですが、先程の証人のお話にもありましたが、誰に何を確認して動けばいいのか。安全性の確認が、どのように行われてきたのか。そのあたりの情報がない中で、業務に就くのは、非常に怖い思いがありました。従事するスタッフが、安心できない事業を住民の方に提供しないで済むような形で、体制を取っていただきたいと考えています。

○議長（新澤良文君） それでは、議会議員の皆様から松本証人へのご質問がございましたら、お受けします。森川副議長。

○1番（森川彰久君） 更に詳しく、ご証言をいただいたような内容であったと思います。これまでの皆様方の証言を総括的に取りまとめた場合、という前提で、ひとつだけ確認させていただきたいです。昨日、大字各区長に高取町から書類が来しました。その中で、7月11日の件については、当日接種した看護師二名に確認した結果、二度打ちの事実は絶対はないと。次に、打たずに帰られたということについては、対象者の特定はできませんでしたが、打たずに帰られたと判断しました。という高取町の回答でありました。こういったことを現場でお話しされたと聞きまし

たけど、この点、どのようにお考えですか。お聞きしたいです。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 打たずに帰られた方がいたと判断をした。というところの根拠が、知らされてはおりませんので、なぜかという疑問は、同じように私も感じました。二度打ちされた方がいるのではないかという危機感が、当日、私は強くありましたので、絶対にないと看護師が胸を張って言えるように、業務に就いていただいていたと思います。間違えてやろうと思ってする行為ではないからです。業務の中で、過失としてあった出来事を、個人の主観と認識をもって判断するというのは、非常に危険ではないかと感じました。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） よくわかりました。看護師さんの立場とすれば、松本証人が証言されたとおり通常業務をされているだけで、看護師さんが二度打ちしたとかいう認識は、当然持っておられないと。そういうことですね。ただ、看護師さんの通常業務をもって、過失ということもあり得る中で、絶対にないというこの言葉に疑問を感じてお尋ねした次第です。それで結構です。二つ目に、7月16日の再冷凍の件については、再冷凍にあたるのではないかという疑義があったため、製造元のファイザー社に確認し、再冷凍にはあたらないという回答を受けて、接種従事医師にも確認の上、7月21日にワクチンを接種したものです。こういう説明があったんですね。これはもう今までの一連の皆様方の証言をお聞きしたら、どのような質問をされて、その回答をもって、こういう今言ったような説明をされたか。もう論ずるより、今までの論点で、この答えは速やかに出てくると思います。要は、何も問題ないよ。という質問をされて、その上での回答をもって、この説明をされていると。もっと詳しく言えば、正しい説明をすれば、松本証人が先程言われたように、そのようなワクチンは、廃棄するのが当然ですよと。口頭では、そのようにお聞きされているわけやから。だから、各大字区長さんには、そのような説明をするのが執行部としての正しい説明だと。間違った実情と違う説明を聞いて、あたかもその回答が欲しいですよと言わんばかりの質問書を出して、得た回答でもって、問題ないと。各大字の区長さん、安心してくださいと。そういう回答書を出されているのは、明らかであろうかと思います。最後に、三つ目、対象者には個別に連絡し、速やかに抗体検査、感染症の検査等を実施します、と。ああ、これから執行部、よくやってくれるんやなという印象は受けますね。これも先程、私、植山証人にお聞きしたように、もう既に3カ月も経過している中で、全く効果がないという医療関係

者の助言もいただいておりますので。そういったことで、松本証人は、どう思われますか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 抗体価の獲得については、個体差もありますし、二度接種されている方と一度接種の場合の下がり幅というものもあると思います。確実に免疫を獲得されているかどうかの判断基準をどこにもつかは、有識者にきっちり確認しないと非常に難しい問題であると考えます。

○議長（新澤良文君） 松本証人にお尋ねします。二度打ち等々の事案は、先程、お伺いしたんですけど。全国各地で、カラ打ちというのは、いわゆる使い古しの注射器を接種してしまったという事案が沢山起こっております。この7月11日の注射器余りの事案についても、この可能性が否めないということで、よろしいございませうか。どう思われますか。

松本証人。

○証人（松本聖子君） 少し質問してもいいでしょうか。7月11日の件・・・。

○議長（新澤良文君） 注射器が一本余った中で、他の自治体においては、一度使った注射器を廃棄せずに、また、次の人に注射してしまった。という事案が沢山起きております。僕が、ネットを見ただけでも、20件位起きているのかな。近隣では、奈良県五條市で起きております。普通は注射器に薬液が入っていなければ、押せないんで。こんなことありえないと思うんですけど。実際、20件起きているんです。五條市でも起きています。この件について、7月11日、注射器が一本余ったという事実と、出たことにおいて、二度打ちの可能性はないですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 私の私見ですが、二度打ちのあった可能性は高いのではないかと。という思いは、変わらずに抱いております。誰かに使われたシリンジを、そのまま違う方に刺すという行為になります。

○議長（新澤良文君） 他に、質問のある方。西川議員。

○2番（西川侑彦君） すみません。まず、一点目。国というか、上の方に報告するにあたって、数を報告する体制というのは、保健所に報告されているんですか。それとも直接、厚生労働省なんですか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 今、県の方で、疾病対策課の中にワクチン接種推進室という部署が、ございまして、主だったワクチン業務については、そちらから指示なり調査がくるようになっております。

- 議長（新澤良文君） 西川議員。
- 2番（西川侑壱君） この7月11日の件は、どのように報告されているんですか。
- 議長（新澤良文君） 松本証人。
- 証人（松本聖子君） 伺書に、この様式で報告しますという報告書様式を付けましたが、まだ決裁が返ってきておりませんので、未報告の状態です。
- 議長（新澤良文君） 西川議員。
- 2番（西川侑壱君） すみません。報告に関しては、わかりました。7月11日、先程、濱坂証人のところでも聞かせていただいたのですが、ダブルチェックの体制で薬液充填をされていた。看護師さんと松本証人でされていたと。業者さんと松本証人の方で、シールと枚数と全部あわせていた。という認識で大丈夫ですか。続けます。当日、7月11日は、何人の予約が入っていたんですか。
- 議長（新澤良文君） 松本証人。
- 証人（松本聖子君） すみません。予約が入っていた人数というもの。今、正確に数字が出てきませんので、差し控えさせていただきたいと思うんですが。当日は、キャンセルも複数あったということ。実際に接種された数が、222であった。ということ。すみません。ちょっと数が正しく認識できておりませんので。
- 議長（新澤良文君） 西川議員。
- 2番（西川侑壱君） そこが、僕自身がわからなかったところで。予約人数が元々何人いて。注射器の本数を何本用意して。キャンセルが何人出て。注射器を何本廃棄したのか。午前中で何人終わらせて。午前中は合致しているということなので。午前中に何人に接種して。そこは全部合致していて。そこから2時10分、20分あたりまで。発覚するまでの間に、何人に接種した中で一本足りない。という具合に状況を整理していかなければ、おそらくわからないと思うんです。そのあたりも踏まえて、しっかり考えていかなければいけないというのと。もう一点、導線がどうなっていたのか。というのをもう一度確認させていただきたい。保健センターに入ります。入ったところに待つ場所がある。奥の方に問診室があったと。先程の話では、問診室で問診した上で接種室に。接種室の前でシールを貼る。だから接種室に入ったときには、予診票を確認した上で接種をするという流れですよ。そのあたり、どういう配置図になっていて、どういう導線があって、どこでどういうチェックがなされて、予防接種されていたのか。今は難しいと思いますので、そのあたり、また教えていただければと思います。
- 議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。今お尋ねいただきました件に関する数字で、私が認識している数だけお伝えしたいと思います。午前の接種は、97名。キャンセルや時間変更の当日申し出がありますので、一バイアルを六本で吸い上げたとしても、残った数本は、午後の一番最初の接種に回すという形で対応を取っています。午後の受付開始が、通し番号でいう整理番号98番からのスタートになります。この日は、ロット番号の異なる接種も予定されておりました。接種番号で、ロット番号が異なる方は、157番からの方になります。ですので、午後の一番の98番の整理番号の方から、156番の整理番号の方が、疑義に該当する59名の人数になるかと、報告をさせていただいております。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） 今の説明でわかりました。僕、専門家でもないのですが、ロット番号って何ですか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） ワクチンの株の違いで、製造元のファイザー社の方から、このワクチンは、何番の株ですと。製造工程での区別を簡単にするようなものと理解していただいて差し支えないと思います。

○議長（新澤良文君） 他に、松本証人に対する質問はございませんか。谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 提出いただきました資料の中の最後のページで、対応協議というところがあるんですけど。ここに非常に重要なことが書かれておまして。まず、一点目。総合政策課長補佐より、辰巳医師より意見のあった、住民への電話連絡を行う対応を実施するかどうかの質問が出たにもかかわらず、住民への確認、連絡を行わない方向で協議が進行すると。これに、間違いございませんか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） はい。重要な内容であると認識しましたので。私自身、記憶違いがないようにと控えたメモです。日の浅いうちに記録しておりますので。59人に、どう電話連絡を取るかという協議がなかったのは事実です。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） それとですね、シリンジが余っているということで。その場合、感染症を中心とした健康被害や免疫獲得についての保証がなされないことについての松本保健師からの進言があったにもかかわらず、他に少数意見が出されたということで、他に、松本保健師に賛同されて、意見を出された方の記憶はございますか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。記録の時点で、少数のいくつかのご発言があったというのは事実なんです。どの趣旨のものであったかと書きとめるのに足るような確固たるものがなかったので、このような記載になってしまっています。申し訳ありません。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 最後にですね、町長の発言が、最終的には、状況を静観するという発言があったので、散会の流れになった。ということが記載されております。最後に、副町長から、松本保健師に、この結果で納得かと尋ねられるが、納得できないと回答されたにもかかわらず、会議が終了したということで、よろしいですか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） はい。協議の終盤に、おそらく医療職の思いを聞いてくださったと受け止めたんですが。確かに、重大なことが発生してしまった。二度打ちはないと看護師は言っている。大変だという思いを抱かれる状況は理解するけれども、対応は納得できない。とお答えしましたが、散会の流れは、そのまま継続されましたので、特段の協議があったようには、記憶しておりません。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） その後、どのような対応をされましたか。何の対応もされなかったのか。進言はされたけども、どなたも取り合ってもらえなかった。ということか。おわかりであれば、お答えいただきたい。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 記載の内容は、11日の、当日の動きが全てでございます。これらの記録と国の様式、間違い報告書を添えて、伺書を作成したのが、翌週12日以降になります。その際に、再度、私が伝えた内容が伝わっているのか。再検討してほしい。という思いを添えて、伺書を持参しましたので、それ以降の動きは、特段できていないのが現状です。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 最後に、そうしたら、この榊井課長宛の起案は、今のところ返ってきていないということで、よろしいですか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） はい。そのとおりです。

○議長（新澤良文君） 他に、松本証人への質問がある方はいらっしゃいますか。ご

ございませんか。

○議長（新澤良文君） では、松本証人への尋問は終わります。

○議長（新澤良文君） 最後に、総括として、町長もおられることですので。今日の100条調査権を行使した本会議におきましてのそれぞれの証人の尋問が終わったところでございますが。議会に対して提出されている文書にも、この調査の中に配布された資料にも、二度打ちはない。打たずに帰られた。ということを確認のようにおっしゃっております。そして、この再冷凍についても、ファイザー社、あるいは県の方に問い合わせたら、問題ないという認識の文書が提出されているというわけなんですけども。今日の証人喚問を終えられた後であっても、現場の証人の言葉、そして動き等々を今日は尋問したわけなんですけど、これを聞いた後でも町長は、この認識を変えられませんか。町長にお尋ねします。中川町長。

○証人（中川裕介君） 今日一日、4人の保健師さんから、現場の声を聞かせていただきましたので。私の方は、町のワクチン接種の責任者として聞いております。また今、実際に現場で対応していただいた4人の保健師さんの現状を聞きましたので、再度、プロジェクトチーム、実際に動いている各課長さん等を含めまして、考えを改めないとかんところもございますので。今の感想は、そういうことでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） それでは、皆さんにお諮りいたします。本日の100条調査権を行使した本会議は、これにて一時終わりたいと思っております。次の日程調整等々もございます。この場で決めるのもあれなんで、場所を移して全員協議会の方で、皆様と日程調整をさせていただいて、次の日程、あるいは証人についても皆さんと協議をしていきたいと思っておりますが、よろしいございますか。

〔「異議なし」の声起る〕

○議長（新澤良文君） それでは、これをもちまして、100条調査権を行使した本会議を一時散会します。散会。

午後 5時28分 散会